

野球普及振興活動状況調査2022

【報告書】

＝調査対象：2021.1.1～2021.12.31 実施事業＝

日本野球協議会 普及・振興委員会

日本野球協議会 普及・振興委員会

2023.3.1 作成

調査概要

□ 調査目的

各団体が行う野球普及振興活動の実態を統計的に把握することで、より多くの人々に野球に親しむ機会を効果的に提供する施策を検討し、野球界協働での普及振興活動の増進を図り、もって競技人口の維持・拡大に資することを目的とする。

□ 対象期間 2021年1月1日～2021年12月31日に行われた各団体における普及振興活動

□ 対象団体 日本野球協議会に参加するプロ・アマ中央団体、加盟団体、支部団体、チーム

□ 対象事業 普及振興活動分類(次頁参照)に記載する事業

□ 調査票 **【調査票Ⅰ】**＝イベントごとに参加者が異なる事業(参加者の継続性なし)
【調査票Ⅱ】＝特定人物に対して一定期間繰り返し行われる事業(参加者の継続性あり)
※詳細次頁参照

□ 調査期間 プロ関係団体、各球団:2022年6月～7月31日
※独立リーグ、OBクラブ、選手会、名球会、世界少年野球推進財団、殿堂博物館を含む

アマチュア団体 2022年6月～8月31日
※支部団体(ブロック、都道府県、地区連盟等)、チームを含む

□ 調査方法 調査票配布による定量調査

□ 調査主管 日本野球協議会 普及・振興委員会

普及振興活動分類

分類定義

対象事業例

【調査票Ⅰ】＝ イベントごとに参加者が異なる事業
(参加者の継続性なし)

分類定義

対象事業例

【調査票Ⅱ】＝ 特定人物に対して一定期間繰り返し行われる事業
(参加者の継続性あり)

①野球教室	主に野球経験者を対象とした技術指導等を行う活動	〇〇野球教室、キッズベースボールフェスティバル、大人のための野球教室、プロ野球選手会夢の向こうに等
②体験活動	主に野球未経験者に対して野球に親しむ機会を提供することを目的とした体験活動 ※③を除く	こどもフェスティバル、ティーボール教室、ストラックアウト、親子ふれあいイベント、キャッチボール体験会等
③訪問活動	幼稚園、保育園における保育時間内、学校における授業時間内、福祉施設における通所時間内での交流を目的とした訪問活動	野球ふれあい訪問、小学校体育訪問、夢先生、マスコットと遊ぼう、給食交流会等
④授業研究会	学校体育におけるベースボール型授業普及のために教員や教員を志す者に対して行うデモ授業	ベースボール型授業研究会、教員向け勉強会、体育授業講習会等
⑤大会開催	自団体の加盟チームや登録選手以外を参加対象とした大会の開催(他のカテゴリーを対象にした大会)	プロ野球選手会キャッチボールクラシック、NPBガールズトーナメント(学童向け)、ジャイアンツカップ(少年向け)、車椅子ソフトボール大会(障がい者向け)等
⑥観戦招待	自団体やチームが主催する試合への観戦招待	こどもデー、少年野球チーム招待、被災地招待、修学旅行招待等
⑦講習会	指導者の資質向上を目的とした研修・講習会	コーチ養成講座、技術セミナー、トレーニング講習、障害予防講習、甲子園塾、記録講習、審判講習等
⑧地域貢献活動	清掃活動や地域スポーツイベント、お祭り、ボランティア活動など地域における社会貢献活動	マラソン大会、町民運動会、一日警察署長、農業体験、登校支援、市民まつり、クリーンアップ活動等
⑨その他(Ⅰ)	野球の普及振興の観点から実施されるもので上記のいずれにも当てはまらない活動	練習見学、メディカルチェック、肘検診、サマーキャンプ等

⑩スクール事業	各団体や球団(チーム)が行う特定の人物に対して一定期間複数回行う技術向上を目的としたアカデミー等スクール事業	〇〇アカデミー、12球団ジュニアチーム、チアダンススクール等
⑪その他(Ⅱ)	野球の普及振興の観点から実施されるもので上記に当てはまらない参加継続性のある事業 ※詳細は調査票備考欄に記入のこと	指導者派遣、練習補助等

普及振興活動状況調査2022 集計表

対象事業活動期間：2021年1月1日～12月31日

種別	所属分類	略称表記	団体名	調査票Ⅰ				調査票Ⅱ	
				全体数		地域貢献活動を除く(※')		事業数	人数
				事業数	人数	事業数	人数		
プロ野球 関係団体	01.日本野球機構	NPB	日本野球機構(12球団含む)	1,273	176,675	1,238	144,100	160	13,103
	02.日本独立リーグ野球機構	独立リーグ	球団(18)	533	107,794	447	97,440	0	0
	03.日本プロ野球選手会	選手会	日本プロ野球選手会	61	12,910	61	12,910	0	0
	04.日本プロ野球OBクラブ	OBクラブ	全国野球振興会(プロ野球OBクラブ)	97	5,256	95	4,936	0	0
	05.世界少年野球推進財団	WCBF	世界少年野球推進財団	22	993	22	993	0	0
	06.日本プロ野球名球会	名球会	日本プロ野球名球会	8	1,080	8	1,080	0	0
	07.野球殿堂博物館	殿堂博物館	野球殿堂博物館	14	927	14	927	0	0
BFJ関係団体	08.全日本野球協会	BFJ	全日本野球協会	11	1,385	11	1,385	0	0
	09.日本野球連盟	JABA	日本野球連盟(支部含む)	114	10,378	100	8,688	18	1,701
			九州硬式少年野球協会	4	315	4	315	0	0
			全日本少年硬式野球連盟	14	1,325	14	1,325	0	0
			日本少年野球連盟	47	26,317	6	960	0	0
			日本ポニーベースボール協会	1	260	1	260	0	0
			日本リトルリーグ野球協会	8	400	8	400	1	320
	10.全日本大学野球連盟	大学連盟	全日本大学野球連盟	2	76	2	76	0	0
			地区連盟(4)	4	315	4	315	0	0
			大学(23)	39	3,967	38	3,847	6	289
	11.日本高等学校野球連盟	高野連	日本高等学校野球連盟	3	348	3	348	0	0
			都道府県連盟(45)	100	17,429	96	17,184	5	397
			高校(※')	177	6,297	174	6,237	4	268
	12.全日本軟式野球連盟	全軟連	全日本軟式野球連盟	2	163	2	163	0	0
			支部連盟(26)	104	11,606	98	8,801	1	79
その他(8)(※')			18	1,660	17	1,460	7	352	
				2,656	387,876	2,463	314,150	202	16,509

団体名の()内数値は回答団体数

※特記事項は、次頁参照

普及振興活動状況調査2022 集計表 特記事項

[普及振興活動状況調査の集計及び分析作業における特記事項]

(※¹) 地域貢献活動

不特定多数の人が往来する事業が多数。「〇〇まつり〇万人」「〇〇マラソン大会〇万人」とする数値は、直接リーチした人数値に大きな影響を及ぼすため、全体集計に含めず「地域貢献活動」のみを独立させて集計作業を行った。

(※²) 高校

「複数校合同で実施」といった表現が用いられている事業が存在するため、事業参加高校総数を算出せずに集計作業を行った。

(※³) その他

都道府県の野球協会、協議会、OB会などの野球競技団体。ただし、都道府県連盟と合同で行った事業は、都道府県連盟の事業に計上し、集計作業を行った。

野球人口の推移（2010～2022）

（野球の競技統括団体の選手登録者数）

区分		出典	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
女子	硬式	WBFJ						1,519	1,776	1,902	2,118	2,145	2,229	2,533	2,685
女子	軟式	全軟連					1,820	1,860	1,860	2,000	1,960	2,080	2,380	2,460	2,480
還暦	軟式	全軟連	9,000	9,140	9,060	9,160	8,980	8,980	8,940	9,100	9,120	9,200	9,220	9,340	9,460
社会人	硬式	JABA	11,557	11,270	11,598	11,794	11,694	11,833	12,758	12,768	12,741	12,657	12,202	12,176	12,109
一般	軟式	全軟連	723,980	698,500	696,980	666,820	637,380	627,260	612,020	596,120	582,140	512,156	479,816	461,057	439,629
大学	硬式	大学連盟	23,173	23,420	23,934	24,297	24,715	26,326	27,779	28,998	29,207	28,708	26,907	28,902	28,769
大学	軟式	全軟連	9,940	9,480	9,960	9,920	9,860	9,660	9,860	9,800	9,860	9,660	9,420	8,720	8,800
専門学校	軟式	全軟連	4,020	3,980	3,520	3,320	3,440	3,320	3,180	3,020	2,820	2,360	220	580	800
高校	硬式	高野連	168,488	166,925	168,144	167,088	170,312	168,898	167,635	161,573	153,184	143,867	138,054	134,282	131,259
高校	軟式	高野連	11,014	10,983	10,797	10,945	10,535	10,307	9,561	9,303	8,755	8,214	7,787	7,898	7,820
リトルシニア	硬式	JABA	21,126	22,258	22,341	21,672	20,971	20,613	20,300	20,072	20,093	20,552	20,656	21,400	21,123
ボーイズ	硬式	JABA	20,304	21,617	22,241	22,596	21,594	21,202	20,625	20,989	20,425	21,529	21,937	22,967	22,751
ヤング	硬式	JABA	4,809	5,056	5,027	5,292	4,866	5,128	5,043	5,020	5,226	5,289	5,430	5,724	5,834
ポニー	硬式	JABA	1,411	1,407	1,395	1,423	1,800	1,783	1,684	1,717	1,963	2,167	2,361	2,854	3,025
フレッシュ	硬式	JABA	1,960	1,748	1,769	1,492	1,355	1,405	1,350	1,270	975	935	930	880	830
中学(その他)	硬式	JABA	989	1,019	1,012	620	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学(中体連:男)	軟式	中体連	291,015	280,917	261,527	242,290	221,178	202,470	185,314	174,343	166,800	164,173	158,555	144,314	137,384
中学(中体連:女)	軟式	中体連	1,505	1,658	1,886	1,599	1,955	2,677	2,438	2,686	2,890	3,302	3,606	3,856	3,936
小学生(外ル)	硬式	JABA	12,121	13,311	12,801	14,586	12,000	11,000	10,000	9,500	9,300	7,300	6,900	6,800	6,300
小学生(ホーイス)	硬式	JABA	3,755	3,488	3,308	2,938	2,113	2,133	1,889	2,140	1,805	2,066	1,887	1,685	1,777
小学生(ヤング)	硬式	JABA	321	310	293	216	195	207	191	254	261	278	273	260	202
小学生(ブロンコ)	硬式	JABA		52	42	54	57	49	17	26	43	87	128	146	134
小学(フレッシュ)	硬式	JABA	463	472	460	379	333	310	315	270	255	240	210	200	168
小学生(学童)	軟式	全軟連	296,480	284,420	278,280	265,820	253,260	247,920	242,920	235,840	229,400	197,550	187,015	175,786	170,309
合計			1,617,431	1,571,431	1,546,375	1,484,321	1,420,413	1,386,860	1,347,455	1,308,711	1,271,341	1,156,515	1,098,123	1,054,820	1,017,584

選手登録者数推定数として計算された箇所

※出典：日本野球協議会 普及振興委員会

日本の野球人口（競技統括団体に登録している選手数）は、2010年から2022年にかけて161万7,431人から101万7,584人へと約60万人減少している。女子野球（硬式及び軟式）、還暦野球、社会人野球（JABA）、大学連盟、中学硬式野球を統括するボーイズ、ヤングリーグ及びポニー、中体連（女）並びに小学生硬式野球を統括する小学生（ブロンコ）の選手登録者数は増加している。ただし、選手登録者数は、社会人野球（JABA）は2017年が最も多く、大学連盟は2018年が最も多く、ボーイズは2021年が最も多く、それ以降は横ばいの推移となっている。還暦野球、ヤングリーグ及びポニーの選手登録者数は、2017年頃から増加傾向にあり、小学生（ブロンコ）の選手登録者数は、2016年頃から増加傾向にある。また、リトルシニアの選手登録者数は、2010年から2020年にかけて、2万1,126人から2万1,123人へと、横ばいの推移となっている。他方で、フレッシュ、リトル、高野連の硬式及び軟式、中体連（男）、全軟連の一般、大学（軟式）、専門学校並びに小学生（学童）の選手登録者数は減少している。特に、軟式野球の選手登録者総数は、2010年の約134万7千人から2022年の約77万8千人へと、約56万9千人減少している。

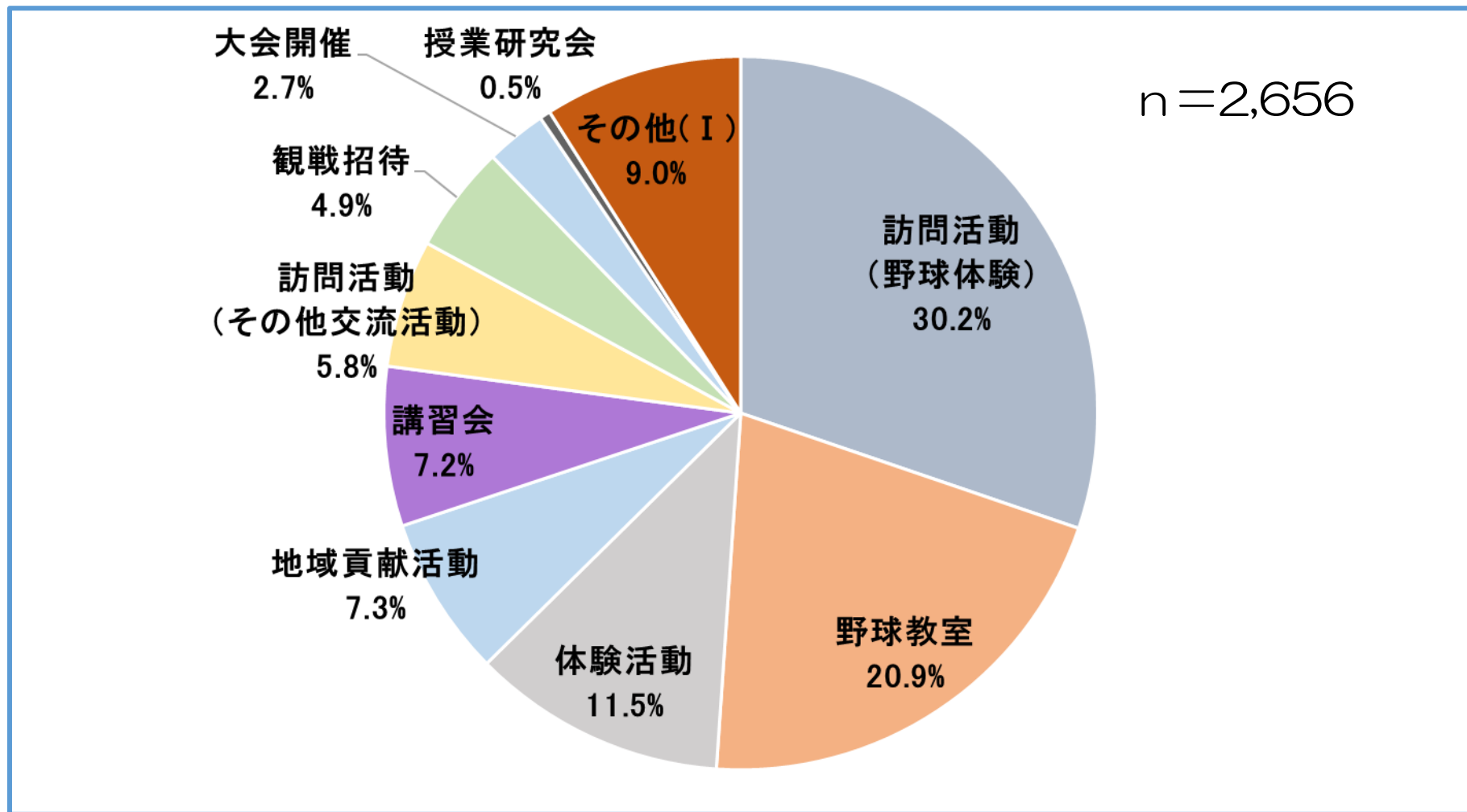
[登録者数の数値に関する補足]

- 中学軟式野球の競技者数については、日本中学校体育連盟（中体連）発表の登録選手数を記載しており、このため、中体連に所属していない中学軟式野球のクラブチーム（全日本軟式野球連盟所属）の登録選手数は含まれていない。
- 高校野球は、日本高等学校野球連盟発表の部員数を記載しており、このため選手以外の部員（女子マネージャーなど）の人数を含んでいる。
- 全日本野球協会に非加盟の団体に所属している選手や、いずれの団体にも所属せず趣味でプレーをしている選手の人数は含まれていない。

調査票 I

= イベントごとに参加者が異なる事業 (参加者の継続性なし) =

全体(割合) 2022調査の結果



2022年の調査では、野球界全体で2,656回の普及振興活動が行われた。なかでも「訪問活動(野球体験)」が最も多く、803回で全体の30.2%を占めた。次いで、「野球教室」20.9%、「体験活動」11.5%、「地域貢献活動」7.3%、「講習会」7.2%、「訪問活動(その他交流活動)」5.8%、「観戦招待」4.9%、「大会開催」2.7%、「授業研究会」0.5%、「その他(I)」9.0%であった。

全体(回数&割合) 2016年、2018年、2020年及び2022年の調査結果の比較

調査年		野球教室	体験活動	訪問活動(※ ¹)			授業研究会(※ ²)	大会開催	観戦招待(※ ³)	講習会	地域貢献活動(※ ⁴)	その他(I)	合計
				野球体験	その他交流活動	小計							
2022	回数	554	306	803	154	957	13	73	129	192	193	239	2,656
	%	20.9	11.5	30.2	5.8	36.0	0.5	2.7	4.9	7.2	7.3	9.0	100.0
2020	回数	1,609	642	1,307	444	1,751	68	153	249	531	682	248	5,933
	%	27.1	10.8	22.0	7.5	29.5	1.1	2.6	4.2	8.9	11.5	4.2	100.0
2018	回数	1,293	640	1,016	519	1,535	66	138	215	419	568	101	4,975
	%	26.0	12.9	20.4	10.4	30.9	1.3	2.8	4.3	8.4	11.4	2.0	100.0
2016	回数	1,442	424	—	—	882	21	145	—	197	—	294	3,405
	%	42.3	12.5	—	—	25.9	0.6	4.3	—	5.8	—	8.6	100.0

※¹ 2016年調査では、調査項目が「訪問活動」であった。

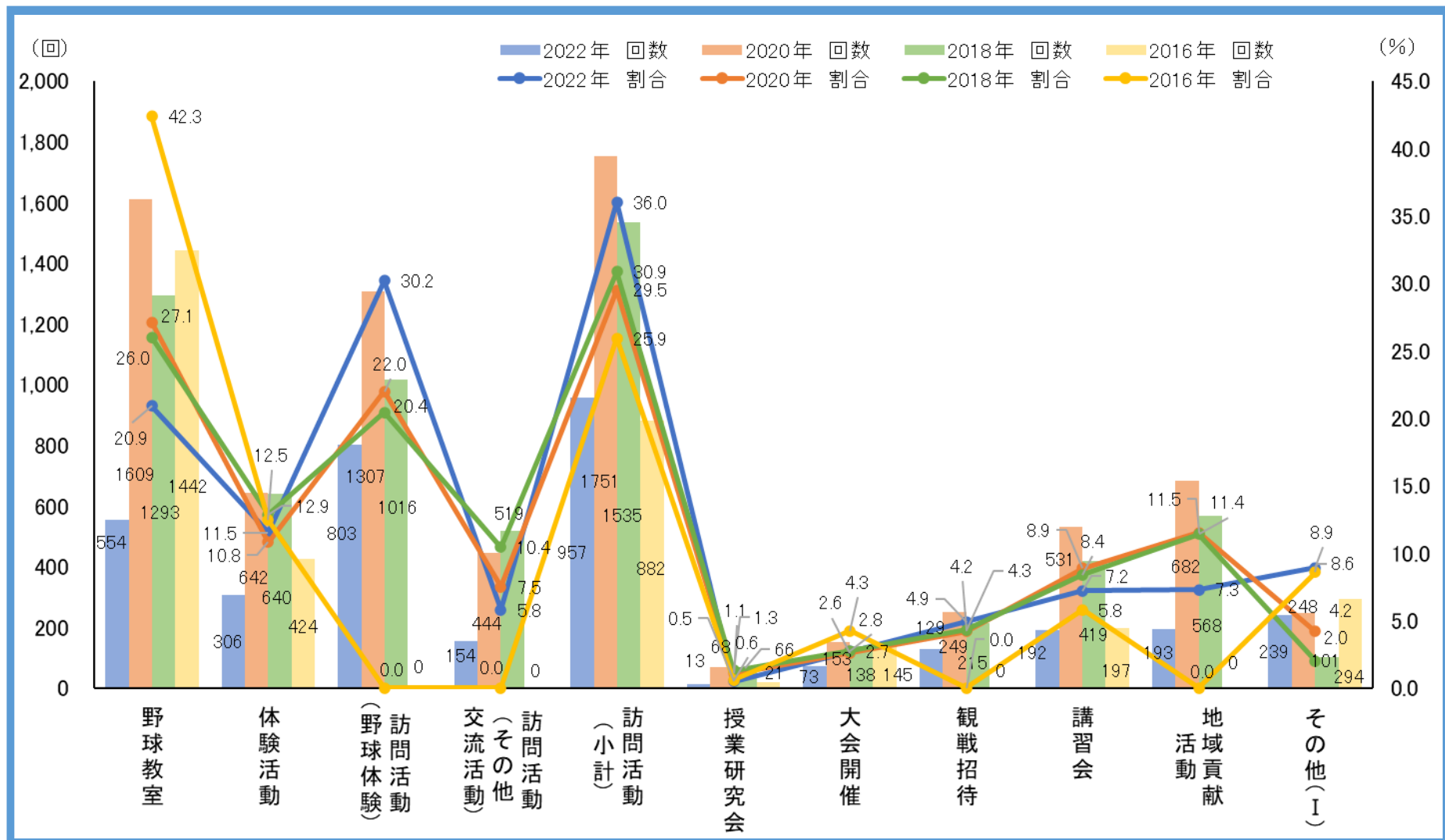
※² 2016年調査及び2018年調査では、調査項目「授業研究会」は「教員向け体育授業研究会」であった。

※³ 2016年調査における「観戦招待」の回数及び割合は、データの都合から記載していない。

※⁴ 2016年調査では、「地域貢献活動」は調査されていない。

総事業回数は、2020年、2018年及び2016年の調査結果よりも2022年の調査結果の方が大幅に減少している。この大幅な事業回数の減少の原因は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。2022年の調査結果と2020年、2018年及び2016年の調査結果とを比較すると、「野球教室」、「体験活動」、「訪問活動」、「大会開催」及び「地域貢献活動」の回数が大幅に減少している。また、「授業研究会」及び「講習会」は、2016年の調査結果と同程度にまで減少している。全体に占める事業の割合を比較すると、2016年の調査結果では、「野球教室」42.3%、「訪問活動」25.9%の順に高く、2018年及び2020年の調査結果では、「訪問活動」、「野球教室」の順に高かったが、2022年の調査結果では、「訪問活動」36.0%、「野球教室」20.9%の順に高かった。訪問活動の内訳は、2018年及び2020年の調査結果では「野球体験」が約20%、「その他交流活動」が約10%であったが、2022年の調査結果では、「野球体験」が30.2%、「その他交流活動」が5.8%であり、野球体験の割合が高くなっている。

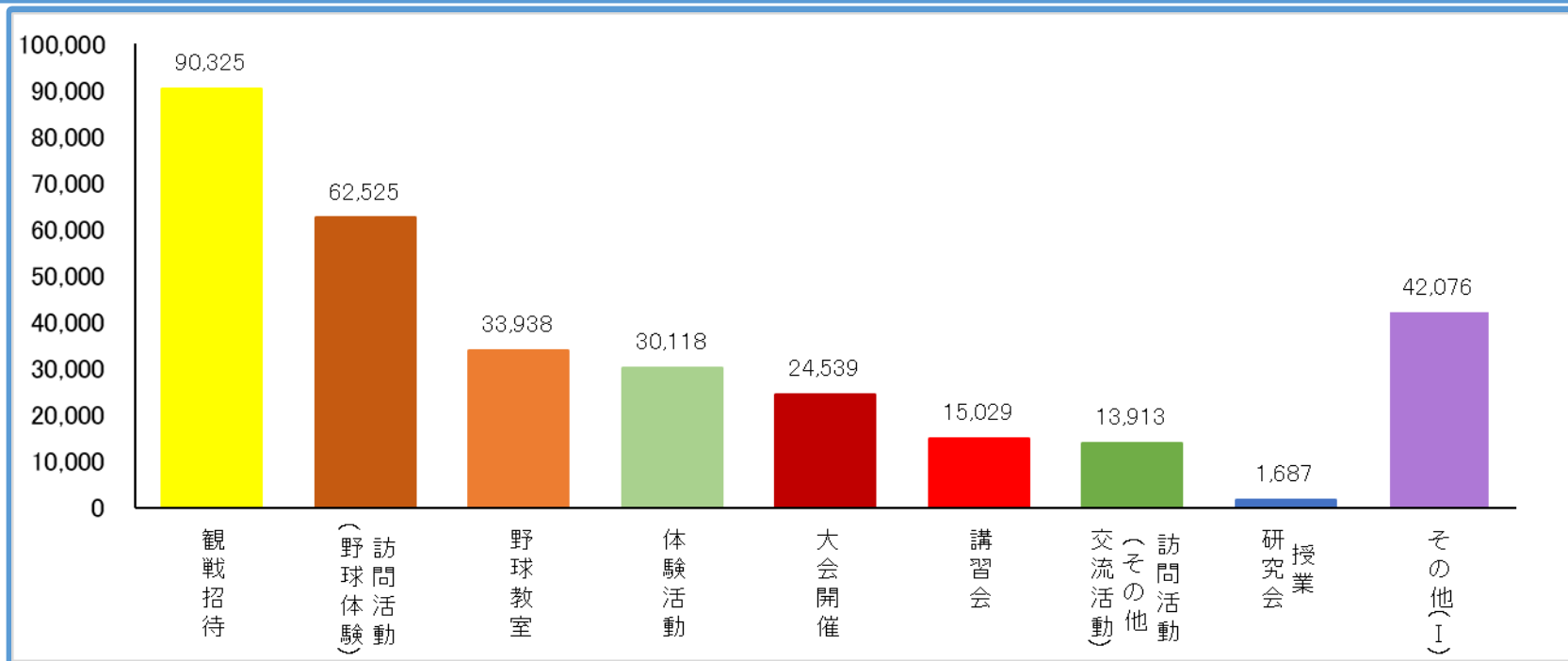
全体(回数&割合) 2016年、2018年、2020年及び2022年の調査結果の比較



※ 2016年調査では調査項目が「訪問活動」であったため、「訪問活動(野球体験)」及び「訪問活動(その他交流活動)」の数値は「0」となっている。

全体(人数)【地域貢献活動を除く】

2022調査の結果



調査年		観戦招待	野球教室	体験活動	訪問活動(※ ¹)			講習会	大会開催	授業研究会(※ ²)	その他(I)	合計
					野球体験	その他交流活動	小計					
2022	人数	90,325	33,938	30,118	62,525	13,913	76,438	15,029	24,539	1,687	42,076	314,150
	%	28.8	10.8	9.6	19.9	4.4	24.3	4.8	7.8	0.5	13.4	100.0
2020	人数	299,312	179,319	142,444	118,036	45,460	163,496	52,445	49,707	2,946	75,510	965,179
	%	31.0	18.6	14.4	12.2	4.7	16.9	5.4	5.2	0.3	7.8	100.0
2018	人数	254,384	132,864	150,737	85,600	65,611	151,211	40,231	45,352	3,698	29,070	807,547
	%	31.5	16.5	18.7	10.6	8.1	18.7	5.0	5.6	0.5	3.6	100.0
2016	人数	162,568	177,276	97,037	—	—	80,717	19,574	54,711	1,212	135,636	728,731
	%	22.3	24.3	13.3	—	—	11.1	2.7	7.5	0.2	18.6	100.0

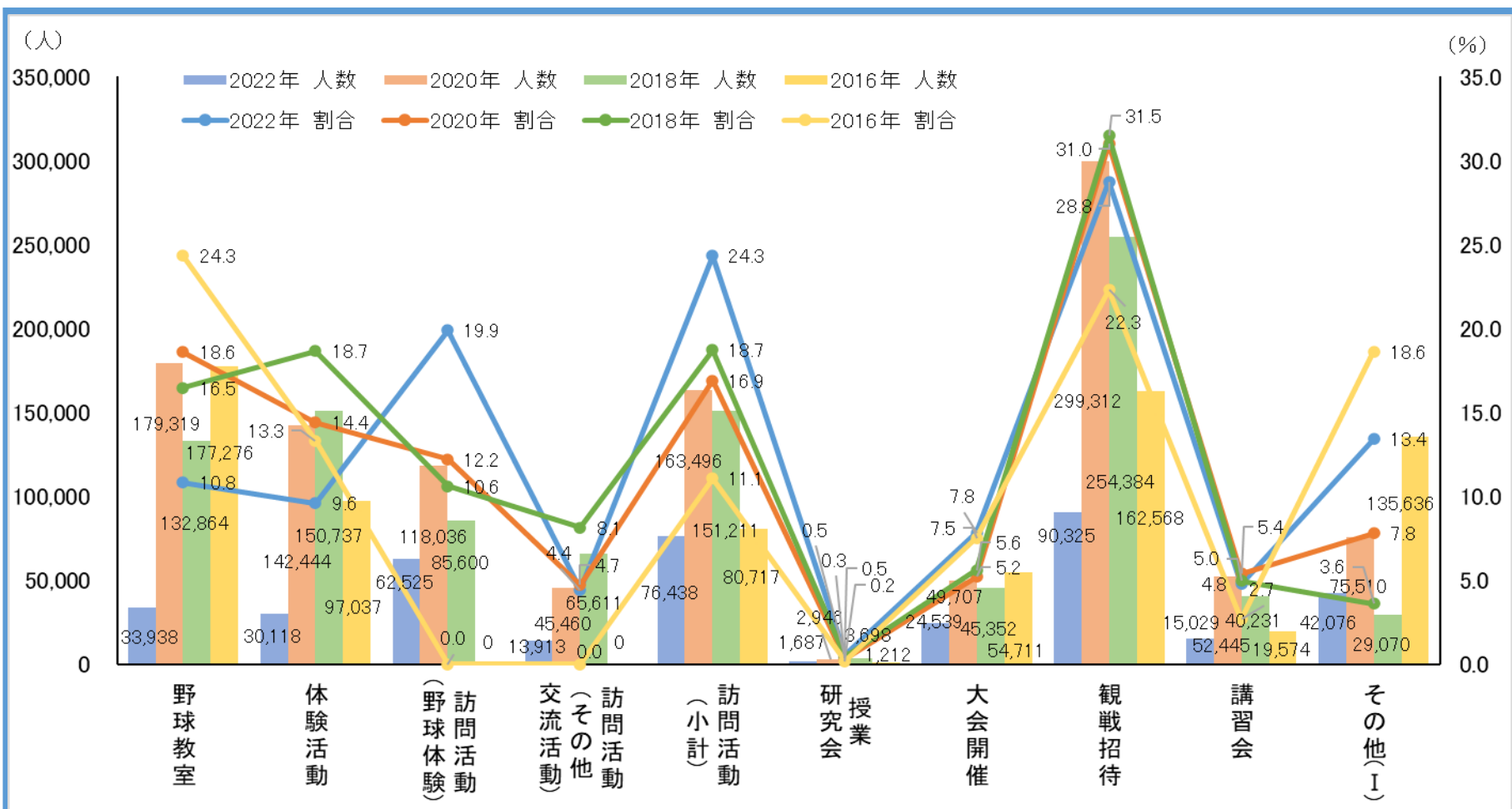
※¹ 2016年調査では、調査項目が「訪問活動」であった。

※² 2016年調査及び2018年調査では、調査項目「授業研究会」は「教員向け体育授業研究会」であった。

注) 地域貢献活動は、極端に人数が多い活動があるため除外している。

2022年の調査結果では、合計で31万4,150人が事業に参加した。事業の中で参加者が最も大きかったのは「観戦招待」で、9万325人であった。次いで、「訪問活動(野球体験)」(6万2,525人)、「野球教室」(3万3,938人)、「体験活動」(3万118人)の順に参加者が多かった。

全体(人数)【地域貢献活動を除く】 2022調査の結果



※ 2016年調査では調査項目が「訪問活動」であったため、「訪問活動(野球体験)」及び「訪問活動(その他交流活動)」の数値は「0」となっている。

事業参加者数について、2022年の調査結果と2020年、2018年及び2016年の調査結果を比較すると、全ての事業において大幅に減少している。2022年と2020年の調査結果とを比較すると、「観戦招待」は約20万人、「野球教室」は約14万人、「体験活動」は約11万人減少している。また、全体に占める参加者数の割合を比較すると、「訪問活動(野球体験)」が増加している。2022年と2020年の調査結果とを比較すると、大会開催の割合も増加している。「授業研究会」及び「講習会」の割合には大きな変化はなかった。

団体別(回数) 2022調査の結果

団体	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
NPB	116	153	683	102	4	20	76	8	35	76	1,273
独立リーグ	184	71	28	15	9	3	49	7	86	81	533
選手会	3	6	39	0	0	12	1	0	0	0	61
OBクラブ	9	5	0	16	0	10	0	0	2	55	97
WCBF	6	1	9	0	0	0	0	3	0	3	22
名球会	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
殿堂博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14
BFJ	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	11
JABA	52	11	6	8	0	10	0	11	14	2	114
ヤングリーグ	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	14
ボーイズ	0	0	0	0	0	6	0	0	41	0	47
ポニー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
リトル	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	8
フレッシュ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4
大学連盟	26	3	0	0	0	5	2	7	1	1	45
高野連	139	37	32	10	0	0	1	53	7	1	280
全軟連	12	14	5	3	0	6	0	76	7	1	124
合計	554	306	803	154	13	73	129	192	193	239	2,656

2022年の調査結果を団体別にみると、NPBの事業回数が各団体の事業の中で最も多く1,273回、次いで独立リーグ(533回)、高野連(280回)、全軟連(124回)の順であった。NPB、選手会及びWCBFでは、「訪問活動(野球体験)」が最も多く行われ、独立リーグ、名球会、JABA、大学連盟及び高野連では「野球教室」が、BFJ、ヤングリーグ、フレッシュ及び全軟連では「講習会」が最も多く行われた。また、ボーイズでは「地域貢献活動」が、ポニーでは「体験活動」が最も多く行われた。

※ ヤングリーグ：全日本少年硬式野球連盟、 ボーイズ：日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)、 ポニー：日本ポニーベースボール協会、
リトルシニア：日本リトルシニア中学硬式野球協会、 リトル：日本リトルリーグ野球協会、 フレッシュ：九州硬式少年野球協会

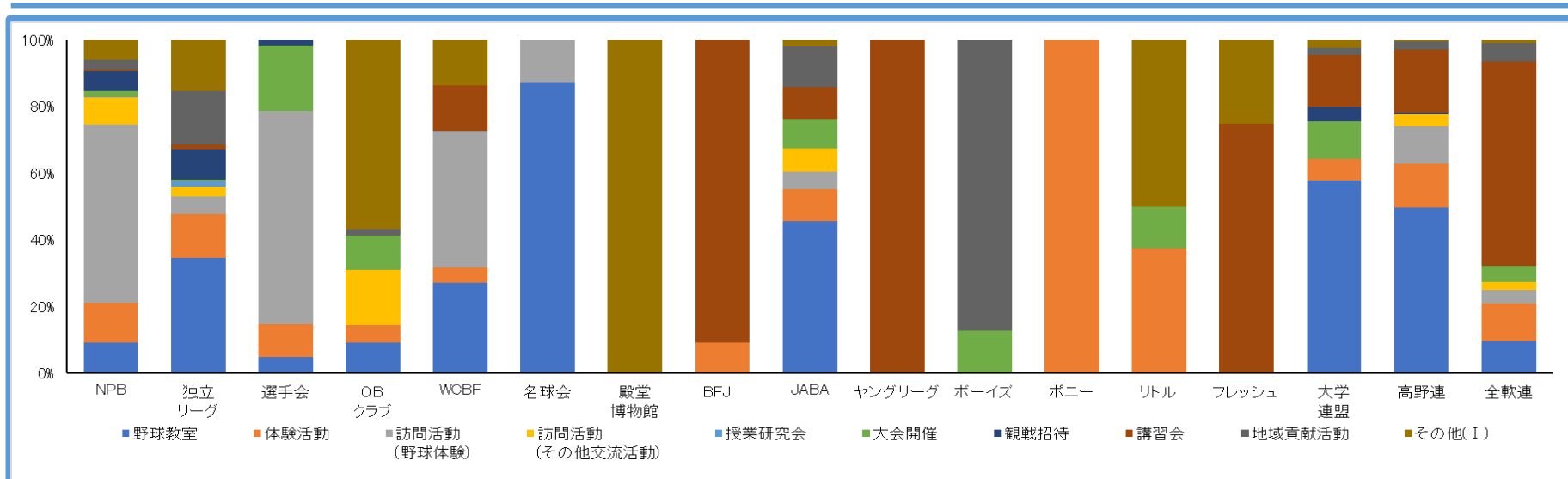
団体別(人数) 2022調査の結果

団体	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	その他(I)	合計
NPB	8,157	16,188	55,225	8,831	167	12,614	29,915	561	12,442	144,100
独立リーグ	5,611	4,305	904	797	1,520	400	55,724	804	27,375	97,440
選手会	562	530	3,544	0	0	3,820	4,454	0	0	12,910
OBクラブ	1,256	250	0	1,140	0	2,290	0	0	0	4,936
WCBF	255	25	617	0	0	0	0	29	67	993
名球会	1,000	0	80	0	0	0	0	0	0	1,080
殿堂博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	927	927
BFJ	0	15	0	0	0	0	0	1,370	0	1,385
JABA	2,470	699	486	2,225	0	1,750	0	458	600	8,688
ヤングリーグ	0	0	0	0	0	0	0	1,325	0	1,325
ボーイズ	0	0	0	0	0	840	0	0	0	840
ポニー	0	260	0	0	0	0	0	0	0	260
リトル	0	215	0	0	0	85	0	0	100	400
フレッシュ	0	0	0	0	0	0	0	280	35	315
大学連盟	2,423	170	0	0	0	1,293	49	383	40	4,358
高野連	10,942	5,947	1,204	829	0	0	183	4,234	430	23,769
全軟連	1,262	1,514	465	91	0	1,447	0	5,585	60	10,424
合計	33,938	30,118	62,525	13,913	1,687	24,539	90,325	15,029	42,076	314,150

※地域貢献活動は、人数を特定できない活動があることから、分析の対象から除いている。

団体別に事業参加人数をみると、NPBが最も多く、14万4,100人であり、全体の約44.9%を占めている。次いで、独立リーグ(9万7,440人)、高野連(2万3,769人)、選手会(1万2,910人)の順であった。NPB及びWCBFでは「訪問活動(野球体験)」が、独立リーグ及び選手会では「観戦招待」が、OBクラブ及びボーイズでは「大会開催」が、名球会、JABA、大学連盟及び高野連では「野球教室」が、BFJ、ヤングリーグ、フレッシュ及び全軟連では「講習会」が、ポニー及びリトルでは「体験活動」が最も人数が多かった。また、「観戦招待」は、少ない事業回数で多数の参加者を獲得できる事業となっており、NPBや独立リーグの事業参加者数の増加の要因となっている。

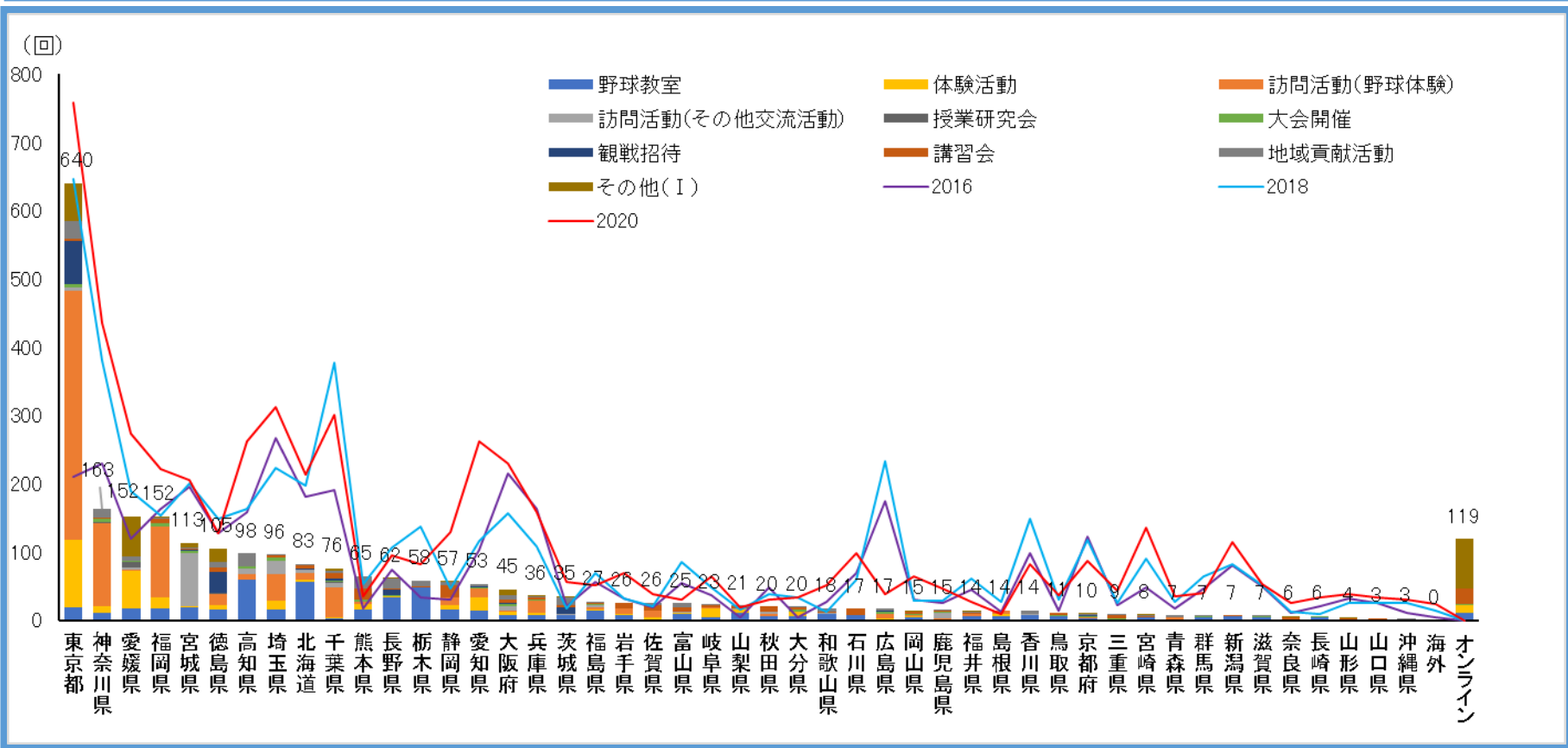
団体別(割合) 2022調査の結果



団体	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
NPB	9.1	12.0	53.7	8.0	0.3	1.6	6.0	0.6	2.7	6.0	100.0
独立リーグ	34.5	13.3	5.3	2.8	1.7	0.6	9.2	1.3	16.1	15.2	100.0
選手会	4.9	9.8	63.9	0.0	0.0	19.7	1.6	0.0	0.0	0.0	100.0
OBクラブ	9.3	5.2	0.0	16.5	0.0	10.3	0.0	0.0	2.1	56.7	100.0
WCBF	27.3	4.5	40.9	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	13.6	100.0
名球会	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
殿堂博物館	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
BFJ	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0	100.0
JABA	45.6	9.6	5.3	7.0	0.0	8.8	0.0	9.6	12.3	1.8	100.0
ヤングリーグ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
ボーイズ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	87.2	0.0	100.0
ポニー	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
リトル	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0
フレッシュ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	100.0
大学連盟	57.8	6.7	0.0	0.0	0.0	11.1	4.4	15.6	2.2	2.2	100.0
高野連	49.6	13.2	11.4	3.6	0.0	0.0	0.4	18.9	2.5	0.4	100.0
全軟連	9.7	11.3	4.0	2.4	0.0	4.8	0.0	61.3	5.6	0.8	100.0
合計	20.9	11.5	30.2	5.8	0.5	2.7	4.9	7.2	7.3	9.0	100.0

団体別に事業の割合をみると、NPB、選手会及びWCBFでは「訪問活動(野球体験)」の割合が最も大きかった。また、独立リーグ、名球会、JABA、大学連盟及び高野連では「野球教室」の割合が、BFJ、ヤングリーグ、フレッシュ及び全軟連では「講習会」の割合が、ボーイズでは「地域貢献活動」の割合が最も大きかった。

都道府県×活動(回数) 回数順 2022調査の結果



〈プロ球団が所在する都道府県〉

NPB : 北海道、宮城県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県

独立リーグ: 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、滋賀県、愛媛県、香川県、高知県、徳島県、大分県、熊本県 (調査対象である2021年時点)

2022年の調査結果によれば、都道府県別の事業回数は、東京都、神奈川県、愛媛県、福岡県、宮城県、徳島県、高知県、埼玉県、北海道、千葉県の順に多く、NPB球団あるいは独立リーグの球団のある都道府県で事業回数が多い傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、オンラインによる事業が多く行われた。一方で、実施された事業回数が10件以下の都道府県が12県あり、30件未満の都道府県が29県あり、事業回数が減少した都道府県が増加した。また、2020年調査で24回行われていた海外での事業は、2022年調査では行われなかった。

都道府県×活動(回数) 回数順 2022調査の結果

活動	東京都	神奈川県	愛媛県	福岡県	宮城県	徳島県	高知県	埼玉県	北海道	千葉県	熊本県	長野県	栃木県	静岡県	愛知県	大阪府	兵庫県	茨城県	福島県	岩手県	佐賀県	富山県	岐阜県	山梨県	秋田県
野球教室	19	11	17	17	19	16	60	16	56	3	16	33	48	16	14	8	8	7	15	8	2	9	4	11	6
体験活動	99	10	55	16	2	6	0	13	4	2	8	2	0	7	20	5	3	0	1	1	3	2	13	5	0
訪問活動(野球体験)	365	122	2	104	0	16	7	38	10	43	4	0	0	10	13	1	18	1	3	8	10	0	2	0	3
訪問活動(その他交流活動)	5	0	3	1	77	1	9	20	4	7	0	0	0	1	0	6	0	1	3	0	0	1	0	1	3
授業研究会	0	1	9	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大会開催	4	4	1	4	3	1	3	5	1	2	3	2	1	0	1	4	2	0	2	1	0	0	0	0	1
観戦招待	64	1	0	1	2	30	0	0	1	4	0	8	0	0	2	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0
講習会	3	2	1	5	1	7	0	3	5	8	15	2	1	17	0	5	2	4	1	8	7	7	3	3	7
地域貢献活動	26	12	5	2	1	8	19	1	2	3	19	14	8	5	3	7	2	10	2	0	4	6	1	1	0
その他(Ⅰ)	55	0	59	2	7	19	0	0	0	3	0	1	0	1	0	8	1	2	0	0	0	0	0	0	0
合計	640	163	152	152	113	105	98	96	83	76	65	62	58	57	53	45	36	35	27	26	26	25	23	21	20

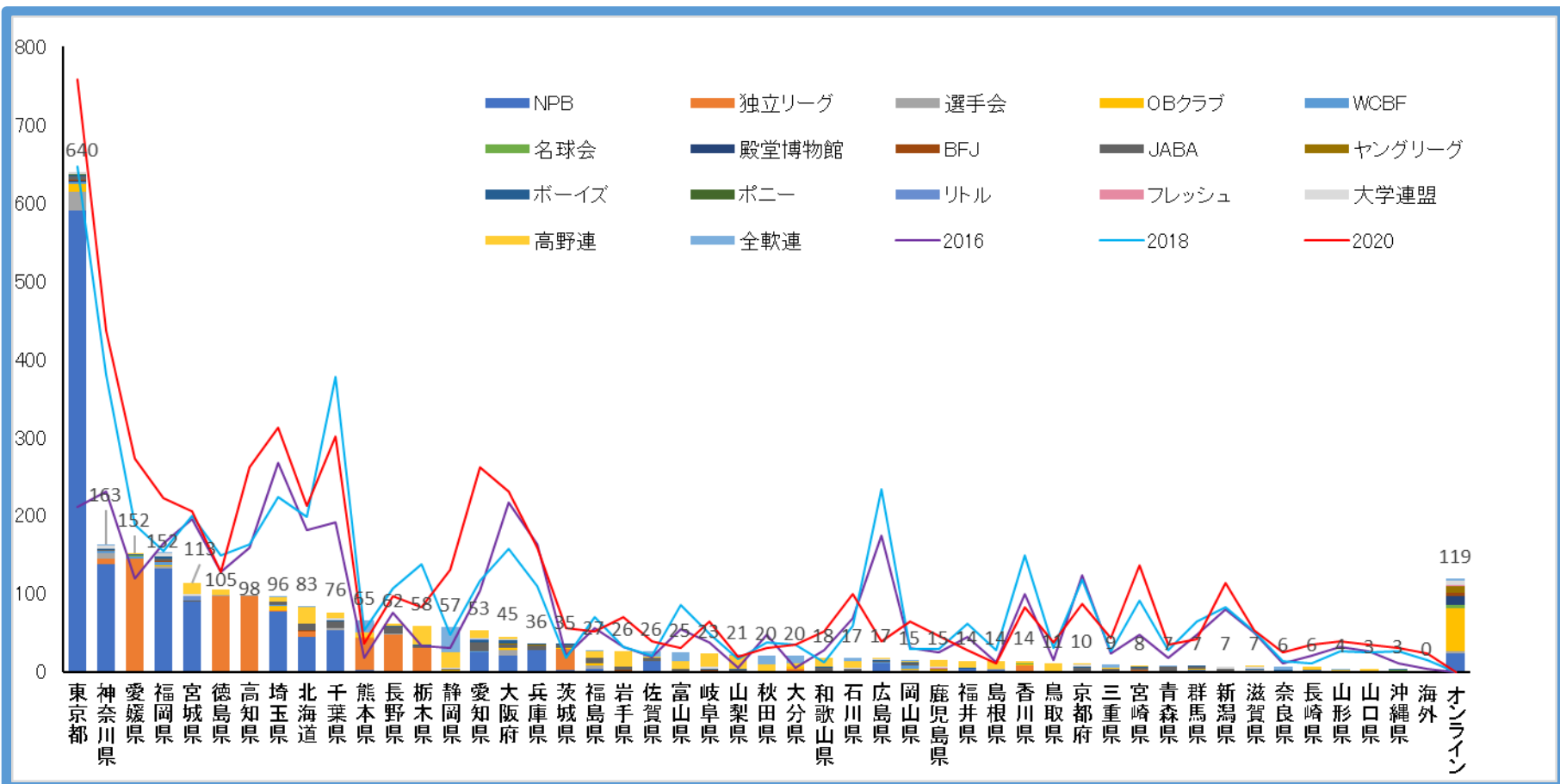
活動	大分県	和歌山県	石川県	広島県	岡山県	鹿児島県	福井県	島根県	香川県	鳥取県	京都府	三重県	宮崎県	青森県	群馬県	新潟県	滋賀県	奈良県	長崎県	山形県	山口県	沖縄県	海外	オンライン	合計
野球教室	6	10	7	2	5	1	6	6	7	6	3	1	4	0	4	6	4	0	4	0	2	2	0	11	536
体験活動	6	0	0	1	1	1	0	4	1	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	306
訪問活動(野球体験)	0	0	0	7	1	1	4	4	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	803
訪問活動(その他交流活動)	0	1	0	0	1	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	154
授業研究会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
大会開催	4	0	0	2	1	1	0	0	1	1	2	1	1	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2	66
観戦招待	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	128
講習会	3	1	10	0	3	2	1	0	0	4	1	5	1	0	0	1	0	3	0	2	1	0	0	23	178
地域貢献活動	1	6	0	2	1	1	1	0	4	0	1	1	1	2	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	186
その他(Ⅰ)	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	72	238
合計	20	18	17	17	15	15	14	14	14	11	10	9	8	7	7	7	7	6	6	4	3	3	0	119	2,608

※開催地不明: 48事業

最上位
上位
10回以下
5回以下

回数が多し上位10都道府県をみると、東京都、神奈川県、福岡県、埼玉県及び千葉県では、「訪問活動(野球体験)」が最も多く行われ、愛媛県では「その他(Ⅰ)」が、宮城県では「訪問活動(その他交流活動)」が、徳島県では「観戦招待」が、高知県、北海道では「野球教室」がそれぞれ最も多かった。「野球教室」を最も多く行っている都道府県が24県であり、次いで「訪問活動(野球体験)」が10県、「講習会」が7県であった。

都道府県×団体(回数) 回数順 2022調査の結果



都道府県別に競技団体の事業回数の割合をみると、東京都、神奈川県、福岡県、宮城県、埼玉県、北海道、千葉県、愛知県、大阪府、兵庫県では、NPBによる事業回数が多い割合を占めている。また、愛媛県、徳島県、高知県、熊本県、長野県、栃木県、茨城県では、独立リーグによる事業回数が多い割合を占めている。

都道府県×団体(回数) 回数順 2022調査の結果

団体	東京都	神奈川県	愛媛県	福岡県	宮城県	徳島県	高知県	埼玉県	北海道	千葉県	熊本県	長野県	栃木県	静岡県	愛知県	大阪府	兵庫県	茨城県	福島県	岩手県	佐賀県	富山県	岐阜県	山梨県	秋田県
NPB	590	138	1	132	89	1	0	77	45	53	2	0	0	1	25	21	27	2	3	1	13	0	0	1	1
独立リーグ	0	6	143	0	0	96	97	2	6	0	41	48	30	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0
選手会	24	7	0	3	0	1	1	0	0	3	0	1	0	0	0	6	0	0	5	0	0	0	1	0	0
OBクラブ	10	1	0	1	1	0	0	5	1	0	1	0	0	1	0	3	1	2	3	0	0	0	0	0	0
WCBF	3	3	4	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名球会	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
殿堂博物館	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
BFJ	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
JABA	4	1	0	2	1	0	0	3	8	8	0	8	3	1	11	5	5	3	7	4	4	2	0	1	0
ヤングリーグ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ボーイズ	2	1	1	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	3	4	1	1	0	0	0	0	1	1	0
ポニー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リトル	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フレッシュ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学連盟	3	4	0	4	2	0	0	0	0	4	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	4	0	0
高野連	0	0	2	0	14	7	0	5	20	7	5	4	23	20	10	4	0	0	8	19	1	10	16	17	8
全軟連	0	2	0	1	0	0	0	1	1	0	15	0	0	32	0	0	0	0	1	0	7	12	0	1	11
合計	640	163	152	152	113	105	98	96	83	76	65	62	58	57	53	45	36	35	27	26	25	23	23	21	20

団体	大分県	和歌山県	石川県	広島県	岡山県	鹿児島県	福井県	島根県	香川県	鳥取県	京都府	三重県	宮崎県	青森県	群馬県	新潟県	滋賀県	奈良県	長崎県	山形県	山口県	沖縄県	海外	オンライン	合計
NPB	1	0	0	10	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	2	0	0	1	0	24	1,272
独立リーグ	3	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	509
選手会	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	61
OBクラブ	2	1	1	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	55	97
WCBF	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
名球会	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	8
殿堂博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	14
BFJ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	11
JABA	0	4	3	2	2	0	0	0	0	0	4	3	3	6	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	114
ヤングリーグ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	14
ボーイズ	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	37
ポニー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
リトル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
フレッシュ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
大学連盟	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	5	45
高野連	4	12	8	1	1	8	9	10	4	10	1	1	2	0	0	0	1	0	2	2	3	0	0	0	279
全軟連	9	0	4	0	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	3	113
合計	20	18	17	17	15	15	14	14	14	11	10	9	8	7	7	7	7	6	6	4	3	3	0	119	2,608

※開催地不明:48事業

最上位

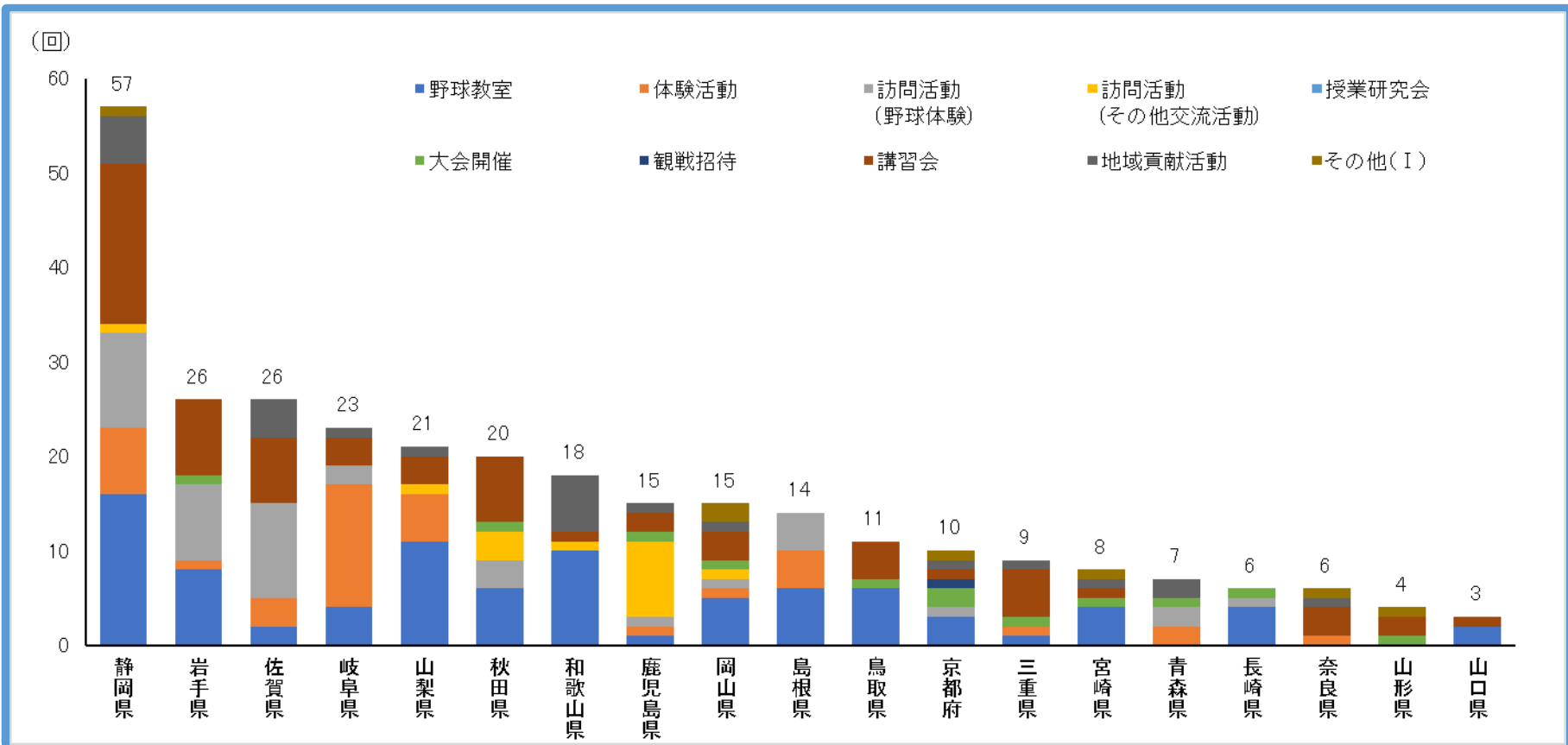
上位

10回以下

5回以下

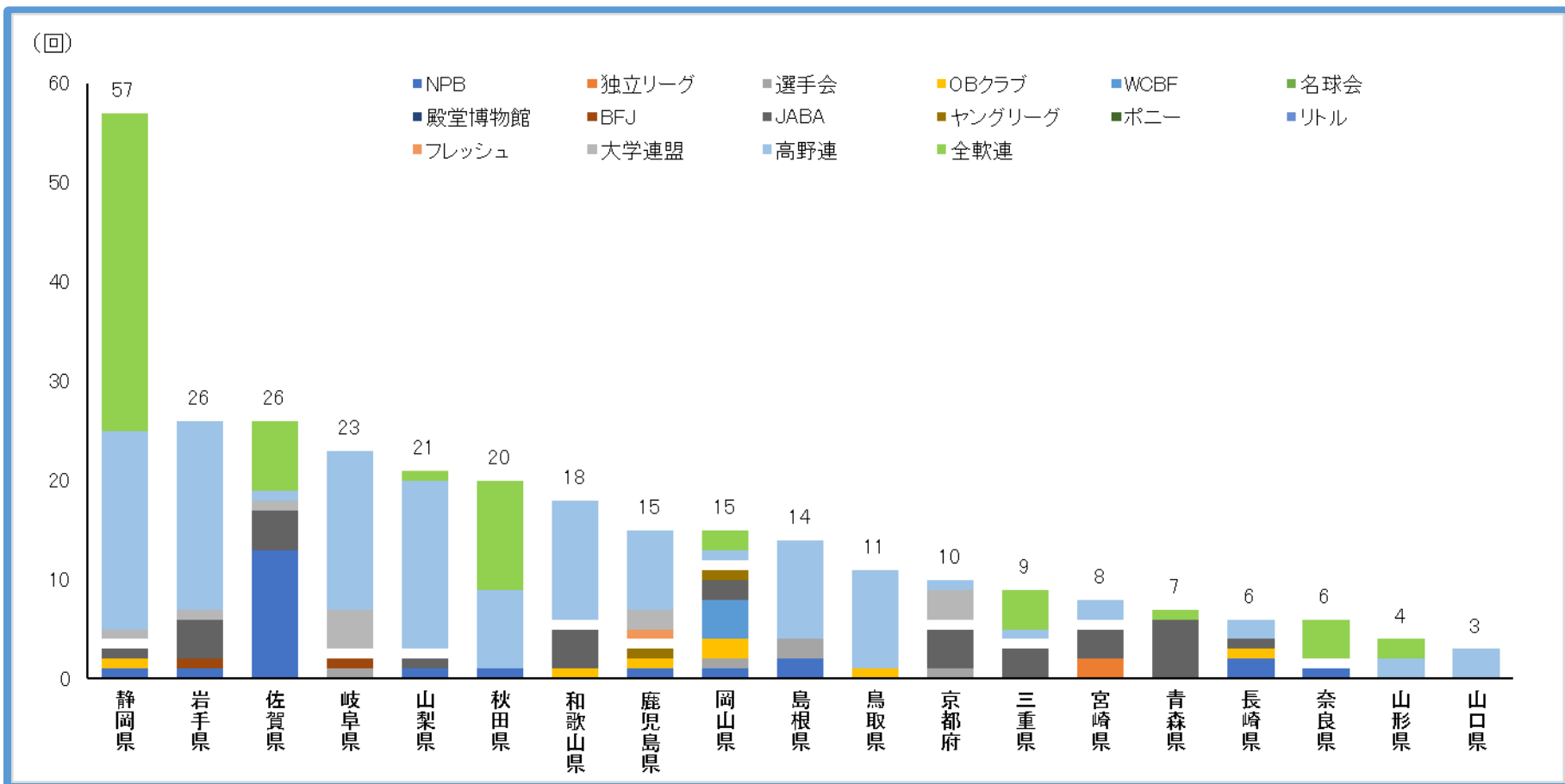
NPBの事業回数が最も多いのは、東京都の590回であり、次いで神奈川県138回、福岡県132回、宮城県89回の順であった。独立リーグの事業回数が最も多いのは、愛媛県の143回であり、次いで高知県97回、徳島県96回の順であった。選手会及びポニーの事業回数が最も多いのも東京都であった。OBクラブ、名球会、殿堂博物館、BFJ、ヤングリーグ、フレッシュ及び大学連盟では、オンラインでの事業が最も多かった。また、JABAは愛知県、ボーイズは大阪府、高野連は栃木県、全軟連は静岡県での事業回数がそれぞれ最も多かった。

プロ球団がない都道府県×活動(回数) 2022調査の結果



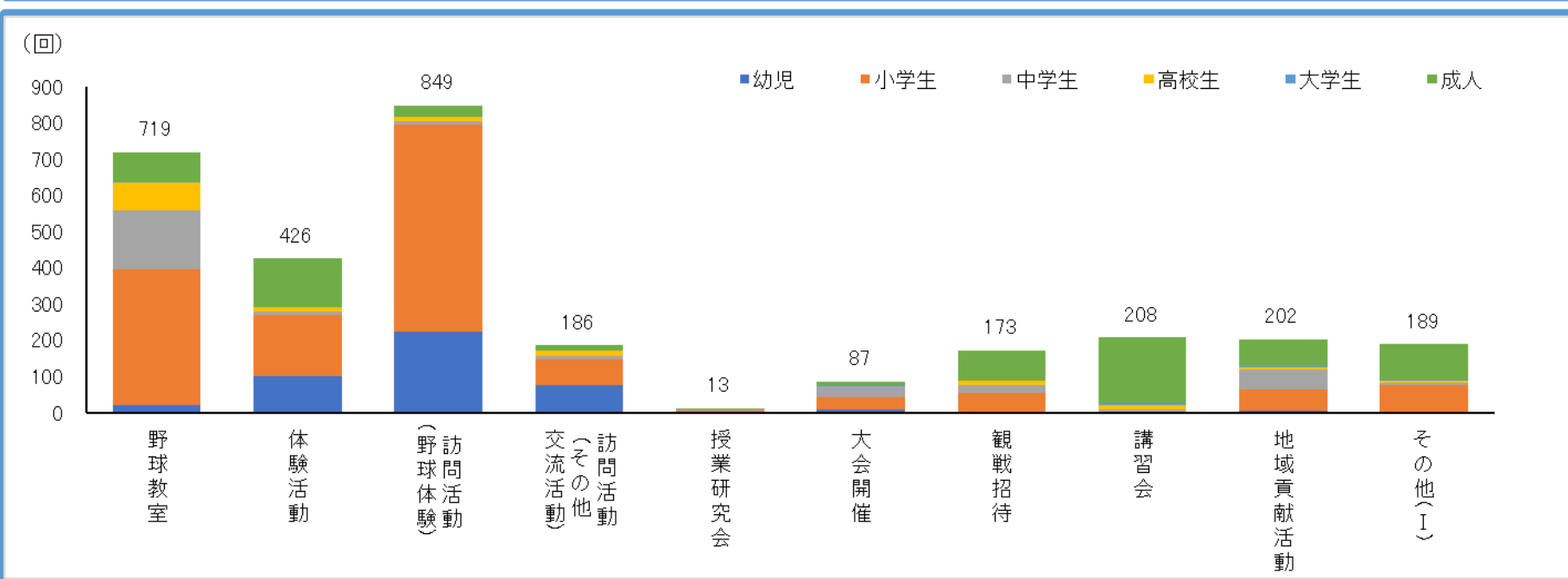
本調査を行った2021年時点にプロ球団(NPB、独立リーグ)がない都道府県(19県)を抽出し、事業の内容と回数をみると、最も事業が行われていたのは静岡県の57回であった。次いで、岩手県26回、佐賀県26回、岐阜県23回の順であった。一方で、三重県、宮崎県、青森県、長崎県、奈良県、山形県及び山口県は、年間の事業回数が10回未満であった。プロ球団がない都道府県では、事業回数が上位の都道府県と比べると、「野球教室」及び「講習会」の割合が高く、「訪問活動」、「観戦招待」、「大会開催」が少ない傾向があった。

プロ球団がない都道府県×団体(回数) 2022調査の結果



本調査を行った2021年時点にプロ球団(NPB、独立リーグ)がない都道府県での事業について、どの競技団体が行っている割合が高いかを見てみると、最も事業が行われている静岡県(57回)では、全軟連及び高野連の事業回数が多かった。その他のプロ球団がない都道府県では、全軟連、JABA及び高野連の事業が多い傾向にある。実施された事業回数が10回以上の都道府県では、高野連の割合が高かった。一方で、事業回数が10回に満たない都道府県は7県あり、2020年調査と比較すると、全体的に実施された事業回数が減少していた。

活動対象×活動(回数) 2022調査の結果

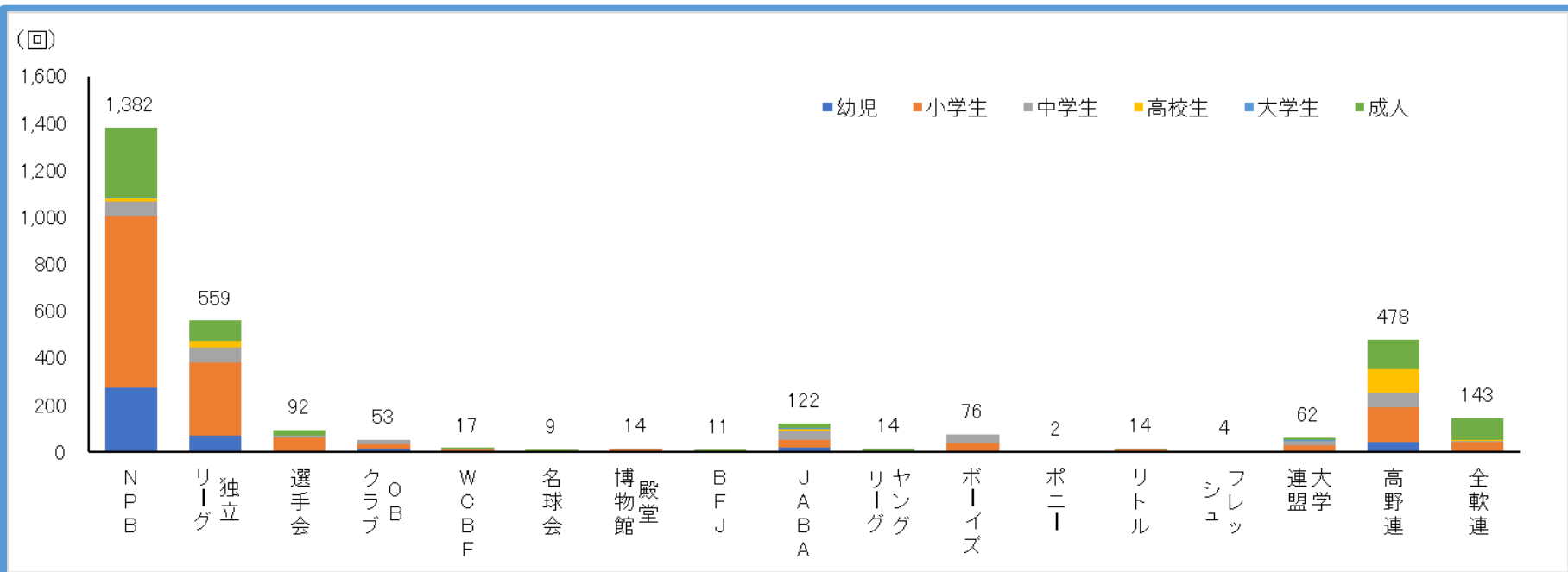


対象	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
幼児	22	102	224	78	0	8	4	0	7	2	447
小学生	373	169	571	68	7	35	50	3	57	76	1,409
中学生	163	7	9	12	2	29	22	7	55	6	312
高校生	79	13	13	14	0	2	12	12	7	5	157
大学生	3	1	1	0	0	2	0	4	2	4	17
成人	79	134	31	14	4	11	85	182	74	96	710
合計	719	426	849	186	13	87	173	208	202	189	3,052

※複数の対象で実施する活動があるため、延べ数となる。対象が特定できない事業は分析の対象から除いている。

事業の対象別(幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、成人)に事業回数をみると、小学生を対象にした事業が1,409回とおよそ半分を占めた。次いで、成人を対象にした事業(710回)、幼児を対象にした事業(447回)の順に多かった。一方で、大学生を対象にした事業が最も少なかった。また、幼児及び小学生に対しては「訪問活動(野球体験)」が最も多く、中学生及び高校生に対しては「野球教室」が、大学生及び成人に対しては「講習会」が最も多かった。

活動対象×団体(回数) 2022調査の結果



対象	NPB	独立リーグ	選手会	OBクラブ	WCBF	名球会	殿堂博物館	BFJ	JABA	ヤングリーグ	ボーイズ	ポニー	リトル	フレッシュ	大学連盟	高野連	全軟連	合計
幼児	272	72	7	14	0	0	0	0	17	0	6	0	4	0	5	44	6	447
小学生	735	307	55	17	8	6	9	0	34	0	29	0	4	0	23	146	36	1,409
中学生	58	65	6	22	0	0	0	0	36	0	41	1	0	0	17	60	6	312
高校生	14	28	2	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	1	101	2	157
大学生	4	1	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	5	1	0	17
成人	299	86	22	0	9	3	5	10	21	14	0	1	6	4	11	126	93	710
合計	1,382	559	92	53	17	9	14	11	122	14	76	2	14	4	62	478	143	3,052

※複数の対象で実施する活動があるため、延べ数となる。対象が特定できない事業は分析の対象から除いている。

対象別に競技団体の事業回数をみると、プロ野球関連団体(NPB、独立リーグ、選手会)は、小学生を対象とした事業が多かった。NPBは、小学生、幼児及び成人の順に事業回数の割合が多く、高野連は成人、高校生及び小学生を対象とした事業の割合が多かった。JABAは、中学生及び小学生の順に事業の割合が多かった。

活動対象×活動・団体(人数) 2022調査の結果

対象	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
幼児	628	4,029	16,094	4,439	0	865	370	0	690	300	27,415
小学生	18,868	10,633	44,577	6,156	1,350	13,179	60,160	354	3,874	21,538	180,689
中学生	7,964	993	352	785	170	8,335	996	1,095	24,051	1,478	46,219
高校生	3,193	1,038	237	289	0	340	106	819	646	1,087	7,755
大学生	61	1	20	0	0	125	0	176	590	1,140	2,113
成人	2,275	5,085	975	244	167	1,695	14,216	12,585	11,037	6,033	54,312
合計	32,989	21,779	62,255	11,913	1,687	24,539	75,848	15,029	40,888	31,576	318,503

※対象が特定できない事業は分析の対象から除いている。

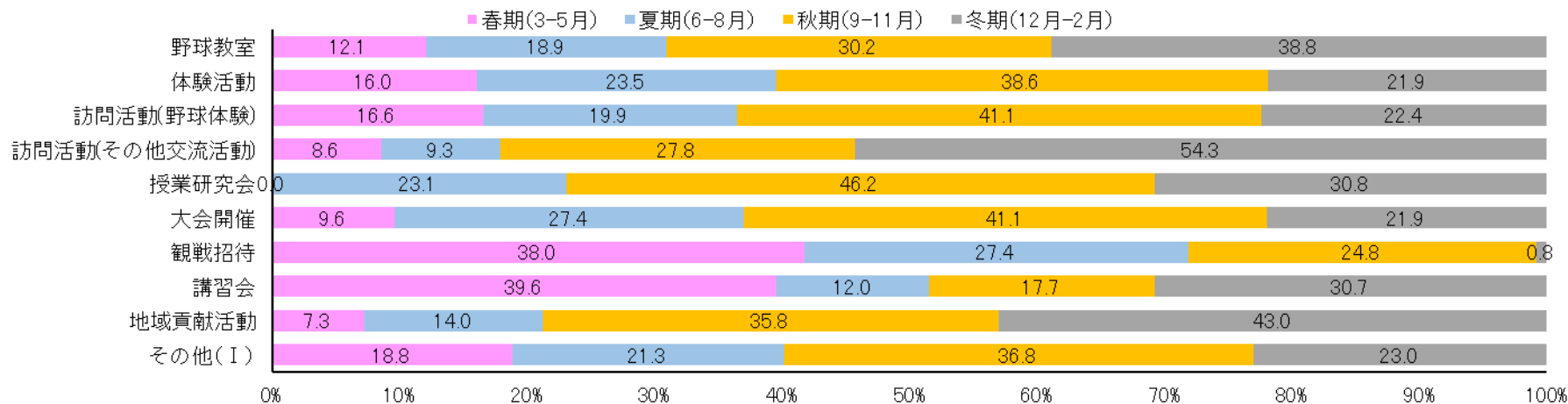
対象	NPB	独立 リーグ	選手会	OB クラブ	WCBF	名球会	殿堂 博物館	BFJ	JABA	ヤング リーグ	ボーイズ	ポニー	リトル	フレッシュ	大学 連盟	高野連	全軟連	合計
幼児	20,675	2,804	215	360	0	0	0	0	587	0	840	0	40	0	96	1,715	83	27,415
小学生	76,270	78,578	5,314	1,549	571	970	711	0	2,355	0	2,259	0	210	0	1,899	7,174	2,829	180,689
中学生	7,284	2,296	1,700	3,347	0	0	0	0	1,365	0	22,970	10	0	0	1,150	5,579	518	46,219
高校生	1,878	134	312	0	0	0	0	0	567	0	0	0	0	0	20	4,764	80	7,755
大学生	1,501	20	0	0	0	0	0	44	276	0	0	0	0	0	242	30	0	2,113
成人	21,251	10,122	5,369	0	127	110	216	1,341	1,510	1,325	0	250	150	315	295	4,812	7,119	54,312
合計	128,859	93,954	12,910	5,256	698	1,080	927	1,385	6,660	1,325	26,069	260	400	315	3,702	24,074	10,629	318,503

※対象が特定できない事業は分析の対象から除いている。

事業の参加者を対象別にみると、小学生の参加者が18万689人と最も多く、次いで成人(5万4,312人)、中学生(4万6,219人)の順であった。2020年調査では、小学生、成人、幼児、中学生の順に参加者が多かったが、2022年調査では、中学生の参加者が幼児の参加者数を上回った。

団体別にみると、幼児、大学生及び成人は、NPBの事業への参加者が最も多かった。特に2020年調査と同様に幼児の人数が圧倒的に多かった。小学生の参加者が最も多いのは独立リーグの事業で、7万8,578人が参加した。中学生の参加者が最も多いのはボーイズの活動で、高校生の参加者が最も多いのは高野連の事業であった。ただし、高野連の事業への参加者は、高校生よりも小学生、中学生及び成人の方が多かった。

活動時期×活動(回数&割合) 2022調査の結果

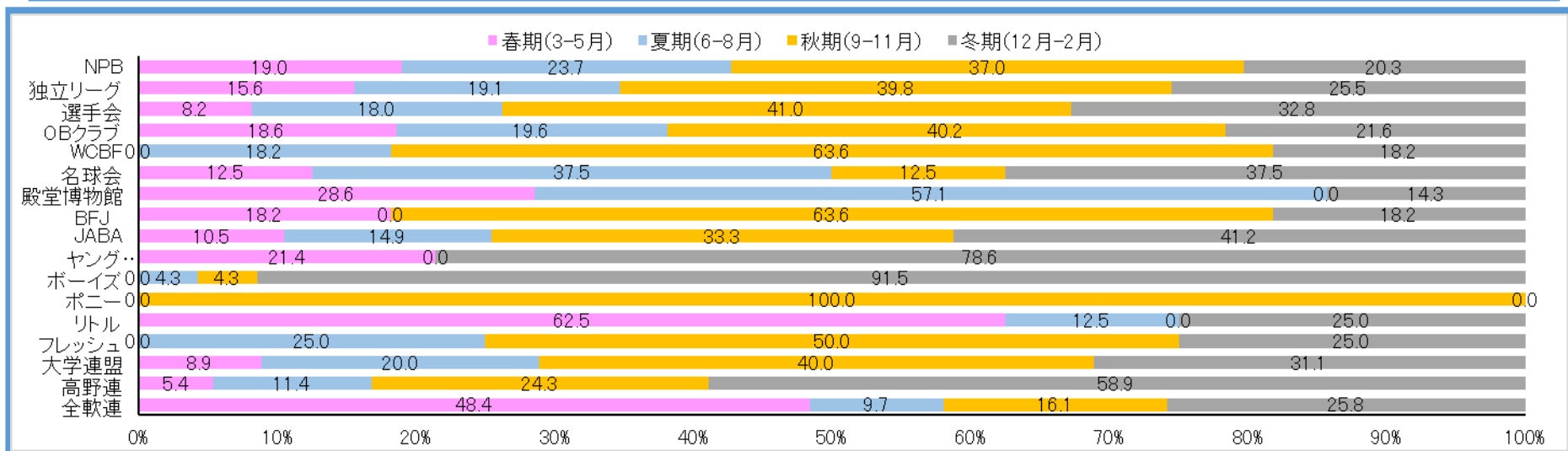


時期	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計	
春期	3月	28	17	25	4	0	3	7	53	4	17	158
	4月	16	15	30	5	0	2	22	11	4	15	120
	5月	22	17	78	4	0	2	20	12	6	13	174
	小計	66	49	133	13	0	7	49	76	14	45	452
夏期	6月	21	34	101	8	0	3	23	17	11	17	235
	7月	42	22	58	4	2	7	13	4	11	17	180
	8月	40	16	1	2	1	10	11	2	5	17	105
	小計	103	72	160	14	3	20	47	23	27	51	520
秋期	9月	6	25	37	0	0	0	19	4	5	26	122
	10月	44	37	140	16	2	5	12	9	35	40	340
	11月	115	56	153	26	4	25	1	21	29	22	452
	小計	165	118	330	42	6	30	32	34	69	88	914
冬期	12月	144	47	128	17	2	15	1	20	73	23	470
	1月	43	8	27	35	0	0	0	15	5	22	155
	2月	25	12	25	30	2	1	0	24	5	10	134
	小計	212	67	180	82	4	16	1	59	83	55	759
合計	546	306	803	151	13	73	129	192	193	239	2,645	

※実施時期不明: 11を除く

事業を季節ごと(春期<3-5月>、夏期<6-8月>、秋期<9月-11月>、冬期<12-2月>)に分類して事業内容と回数を分析した。最も回数の多い「訪問活動(野球体験)」は、秋期(41.1%)の割合が大きかった。次に回数の多い「野球教室」は、冬期(38.8%)に多く行われていた。「体験活動」及び「地域貢献活動」は、秋期から冬期に多く行われていた。「講習会」は、春期及び冬期に多く行われていた。「観戦招待」は、春期から夏期に多く行われていた。また、事業の行われている季節を月別に見ると、10月から12月にかけて多く行われており、他方4月、8月、9月、2月は少なかった。

活動時期×団体(回数&割合) 2022調査の結果



時期	NPB	独立リーグ	選手会	OBクラブ	WCBF	名球会	殿堂博物館	BFJ	JABA	ヤングリーグ	ボーイズ	ポニー	リトル	フレッシュ	大学連盟	高野連	全軟連	合計
春期	3月	55	30	1	9	0	1	1	9	3	0	0	3	0	1	8	36	158
	4月	73	23	1	4	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	15	120
	5月	112	30	3	5	0	0	3	0	0	0	0	1	0	3	5	9	174
	小計	240	83	5	18	0	1	4	2	12	3	0	0	5	0	4	15	60
夏期	6月	157	28	7	8	4	2	0	5	0	0	0	1	1	1	16	5	235
	7月	112	36	4	6	0	1	3	4	0	2	0	0	0	3	7	2	180
	8月	30	38	0	5	0	0	5	0	8	0	0	0	0	5	9	5	105
	小計	299	102	11	19	4	3	8	0	17	0	2	0	1	1	9	32	12
秋期	9月	83	21	1	5	0	0	1	5	0	0	0	0	2	0	1	3	122
	10月	210	77	6	14	3	0	0	4	0	1	0	0	0	1	15	7	340
	11月	174	114	18	20	11	1	0	4	29	0	1	1	0	17	52	10	452
	小計	467	212	25	39	14	1	0	7	38	0	2	1	0	2	18	68	20
冬期	12月	140	71	20	12	4	1	2	32	2	43	0	0	0	12	115	15	470
	1月	59	35	0	6	0	0	1	9	6	0	0	0	0	1	36	2	155
	2月	57	30	0	3	0	2	0	6	3	0	0	2	1	1	14	15	134
	小計	256	136	20	21	4	3	2	2	47	11	43	0	2	1	14	165	32
合計	1,262	533	61	97	22	8	14	11	114	14	47	1	8	4	45	280	124	2,645

※実施時期不明: 11を除く

競技団体に分けて季節ごとの事業の実施状況を見ると、秋期、冬期、夏期、春期の順に事業が多く行われていた。最も回数が多いのはNPBであり、季節にかかわらず1年を通じて事業が行われており、特に秋期に行われている割合が大きかった。JABA、独立リーグ及び高野連の事業は、秋期及び冬期を中心に行われていた。ボーイズ、大学連盟及び全軟連の事業は、冬期の割合が大きかった。OBクラブは、春期の事業の割合が大きかった。

活動時期×活動×団体(回数)① 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(Ⅰ)	合計
NPB	春期(3-5月)	22	35	121	4	0	3	28	1	7	19	240
	夏期(6-8月)	30	53	147	8	3	7	23	0	7	21	299
	秋期(9-11月)	27	57	289	23	1	7	25	2	12	24	467
	冬期(12-2月)	29	8	126	64	0	3	0	5	9	12	256
	合計	108	153	683	99	4	20	76	8	35	76	1,262
独立リーグ	春期(3-5月)	37	5	8	4	0	0	19	2	3	5	83
	夏期(6-8月)	45	8	3	1	0	0	23	1	15	6	102
	秋期(9-11月)	56	28	9	5	5	2	7	3	51	46	212
	冬期(12-2月)	46	30	8	5	4	1	0	1	17	24	136
	合計	184	71	28	15	9	3	49	7	86	81	533
選手会	春期(3-5月)	0	2	1	0	0	2	0	0	0	0	5
	夏期(6-8月)	0	1	8	0	0	2	0	0	0	0	11
	秋期(9-11月)	1	3	15	0	0	6	0	0	0	0	25
	冬期(12-2月)	2	0	15	0	0	2	1	0	0	0	20
	合計	3	6	39	0	0	12	1	0	0	0	61
OBクラブ	春期(3-5月)	0	1	0	3	0	0	0	0	0	14	18
	夏期(6-8月)	1	1	0	1	0	1	0	0	2	13	19
	秋期(9-11月)	7	2	0	9	0	6	0	0	0	15	39
	冬期(12-2月)	1	1	0	3	0	3	0	0	0	13	21
	合計	9	5	0	16	0	10	0	0	2	55	97
WCBF	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏期(6-8月)	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
	秋期(9-11月)	2	1	7	0	0	0	0	2	0	2	14
	冬期(12-2月)	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計	6	1	9	0	0	0	0	3	0	3	22
名球会	春期(3-5月)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	夏期(6-8月)	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	秋期(9-11月)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	冬期(12-2月)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	合計	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
殿堂博物館	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
	秋期(9-11月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14

活動時期×活動×団体(回数)② 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
BFJ	春期(3-5月)	2	2	3	2	0	2	0	47	2	0	2
	夏期(6-8月)	3	4	0	0	0	2	0	3	0	0	0
	秋期(9-11月)	2	5	1	1	0	2	0	8	1	0	7
	冬期(12-2月)	5	3	1	0	0	0	0	18	4	1	2
	合計	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	11
JABA	春期(3-5月)	1	1	0	0	0	0	0	7	2	1	12
	夏期(6-8月)	4	4	0	2	0	4	0	0	3	0	17
	秋期(9-11月)	22	2	2	3	0	3	0	2	3	1	38
	冬期(12-2月)	25	4	4	3	0	3	0	2	6	0	47
	合計	52	11	6	8	0	10	0	11	14	2	114
ヤングリーグ	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	秋期(9-11月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	11
	合計	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	14
ボーイズ	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	秋期(9-11月)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	2	0	0	41	0	43
	合計	0	0	0	0	0	6	0	0	41	0	47
ポニー	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	秋期(9-11月)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

活動時期×活動×団体(回数)③ 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
リトル	春期(3-5月)	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	6
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	秋期(9-11月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	合計	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	8
フレッシュ	春期(3-5月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏期(6-8月)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	秋期(9-11月)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	冬期(12-2月)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	合計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4
大学連盟	春期(3-5月)	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4
	夏期(6-8月)	6	0	0	0	0	1	0	1	0	1	9
	秋期(9-11月)	12	1	0	0	0	2	0	2	1	0	18
	冬期(12-2月)	7	2	0	0	0	2	0	3	0	0	14
	合計	26	3	0	0	0	5	2	7	1	1	45
高野連	春期(3-5月)	2	0	0	0	0	0	0	13	0	0	15
	夏期(6-8月)	10	1	1	2	0	0	1	17	0	0	32
	秋期(9-11月)	35	18	7	1	0	0	0	6	1	0	68
	冬期(12-2月)	92	18	24	7	0	0	0	17	6	1	165
	合計	139	37	32	10	0	0	1	53	7	1	280
全軟連	春期(3-5月)	2	2	3	2	0	2	0	47	2	0	60
	夏期(6-8月)	3	4	0	0	0	2	0	3	0	0	12
	秋期(9-11月)	2	5	1	1	0	2	0	8	1	0	20
	冬期(12-2月)	5	3	1	0	0	0	0	18	4	1	32
	合計	12	14	5	3	0	6	0	76	7	1	124

活動時期×活動×団体(割合)① 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
NPB	春期(3-5月)	1.7	2.8	9.6	0.3	0.0	0.2	2.2	0.1	0.6	1.5	19.0
	夏期(6-8月)	2.4	4.2	11.6	0.6	0.2	0.6	1.8	0.0	0.6	1.7	23.7
	秋期(9-11月)	2.1	4.5	22.9	1.8	0.1	0.6	2.0	0.2	1.0	1.9	37.0
	冬期(12-2月)	2.3	0.6	10.0	5.1	0.0	0.2	0.0	0.4	0.7	1.0	20.3
	合計	8.6	12.1	54.1	7.8	0.3	1.6	6.0	0.6	2.8	6.0	100.0
独立リーグ	春期(3-5月)	6.9	0.9	1.5	0.8	0.0	0.0	3.6	0.4	0.6	0.9	15.6
	夏期(6-8月)	8.4	1.5	0.6	0.2	0.0	0.0	4.3	0.2	2.8	1.1	19.1
	秋期(9-11月)	10.5	5.3	1.7	0.9	0.9	0.4	1.3	0.6	9.6	8.6	39.8
	冬期(12-2月)	8.6	5.6	1.5	0.9	0.8	0.2	0.0	0.2	3.2	4.5	25.5
	合計	34.5	13.3	5.3	2.8	1.7	0.6	9.2	1.3	16.1	15.2	100.0
選手会	春期(3-5月)	0.0	3.3	1.6	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2
	夏期(6-8月)	0.0	1.6	13.1	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0
	秋期(9-11月)	1.6	4.9	24.6	0.0	0.0	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	41.0
	冬期(12-2月)	3.3	0.0	24.6	0.0	0.0	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	32.8
	合計	4.9	9.8	63.9	0.0	0.0	19.7	1.6	0.0	0.0	0.0	100.0
OBクラブ	春期(3-5月)	0.0	1.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	18.6
	夏期(6-8月)	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.1	13.4	19.6
	秋期(9-11月)	7.2	2.1	0.0	9.3	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0	15.5	40.2
	冬期(12-2月)	1.0	1.0	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	13.4	21.6
	合計	9.3	5.2	0.0	16.5	0.0	10.3	0.0	0.0	2.1	56.7	100.0
WCBF	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夏期(6-8月)	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	18.2
	秋期(9-11月)	9.1	4.5	31.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	63.6
	冬期(12-2月)	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
	合計	27.3	4.5	40.9	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	13.6	100.0
名球会	春期(3-5月)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	夏期(6-8月)	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
	秋期(9-11月)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	冬期(12-2月)	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
	合計	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
殿堂博物館	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	57.1
	秋期(9-11月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

活動時期×活動×団体(割合)② 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(I)	合計
BFJ	春期(3-5月)	18.2	18.2	27.3	18.2	0.0	18.2	0.0	427.3	18.2	0.0	18.2
	夏期(6-8月)	27.3	36.4	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0
	秋期(9-11月)	18.2	45.5	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0	72.7	9.1	0.0	63.6
	冬期(12-2月)	45.5	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	163.6	36.4	9.1	18.2
	合計	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0	100.0
JABA	春期(3-5月)	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	1.8	0.9	10.5
	夏期(6-8月)	3.5	3.5	0.0	1.8	0.0	3.5	0.0	0.0	2.6	0.0	14.9
	秋期(9-11月)	19.3	1.8	1.8	2.6	0.0	2.6	0.0	1.8	2.6	0.9	33.3
	冬期(12-2月)	21.9	3.5	3.5	2.6	0.0	2.6	0.0	1.8	5.3	0.0	41.2
	合計	45.6	9.6	5.3	7.0	0.0	8.8	0.0	9.6	12.3	1.8	100.0
ヤングリーグ	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	21.4
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	秋期(9-11月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.6	0.0	0.0	78.6
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
ボーイズ	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	秋期(9-11月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	87.2	0.0	91.5
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	87.2	0.0	100.0
ポニー	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	秋期(9-11月)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

活動時期×活動×団体(割合)③ 2022調査の結果

団体	季節	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(Ⅰ)	合計
リトル	春期(3-5月)	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	秋期(9-11月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	合計	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0
フレッシュ	春期(3-5月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夏期(6-8月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	秋期(9-11月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	冬期(12-2月)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	100.0
大学連盟	春期(3-5月)	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	2.2	0.0	0.0	8.9
	夏期(6-8月)	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	2.2	20.0
	秋期(9-11月)	26.7	2.2	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	4.4	2.2	0.0	40.0
	冬期(12-2月)	15.6	4.4	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	6.7	0.0	0.0	31.1
	合計	57.8	6.7	0.0	0.0	0.0	11.1	4.4	15.6	2.2	2.2	100.0
高野連	春期(3-5月)	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	5.4
	夏期(6-8月)	3.6	0.4	0.4	0.7	0.0	0.0	0.4	6.1	0.0	0.0	11.4
	秋期(9-11月)	12.5	6.4	2.5	0.4	0.0	0.0	0.0	2.1	0.4	0.0	24.3
	冬期(12-2月)	32.9	6.4	8.6	2.5	0.0	0.0	0.0	6.1	2.1	0.4	58.9
	合計	49.6	13.2	11.4	3.6	0.0	0.0	0.4	18.9	2.5	0.4	100.0
全軟連	春期(3-5月)	1.6	1.6	2.4	1.6	0.0	1.6	0.0	37.9	1.6	0.0	48.4
	夏期(6-8月)	2.4	3.2	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	2.4	0.0	0.0	9.7
	秋期(9-11月)	1.6	4.0	0.8	0.8	0.0	1.6	0.0	6.5	0.8	0.0	16.1
	冬期(12-2月)	4.0	2.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	3.2	0.8	25.8
	合計	9.7	11.3	4.0	2.4	0.0	4.8	0.0	61.3	5.6	0.8	100.0

訪問活動(対象者×団体) 2022調査の結果

【回数】

対象	NPB	独立リーグ	選手会	OBクラブ	WCBF	名球会	殿堂博物館	BFJ	JABA	ヤングリーグ	ボーイズ	ポニー	リトル	フレッシュ	大学連盟	高野連	全軟連	合計
幼児	235	28	1	8	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	24	0	302
小学生	542	17	38	4	5	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	21	8	639
中学生	9	3	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	21
高校生	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	19	0	27
大学生	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
成人	2	6	16	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	17	2	45
合計	792	55	55	16	5	2	0	0	15	0	0	0	0	0	0	83	12	1,035

※複数の対象で実施する活動があるため、延べ数となる。

【人数】

対象	NPB	独立リーグ	選手会	OBクラブ	WCBF	名球会	殿堂博物館	BFJ	JABA	ヤングリーグ	ボーイズ	ポニー	リトル	フレッシュ	大学連盟	高野連	全軟連	合計
幼児	18,574	780	50	240	0	0	0	0	206	0	0	0	0	0	0	683	0	20,533
小学生	44,848	680	2,829	415	347	50	0	0	345	0	0	0	0	0	0	853	366	50,733
中学生	500	41	0	485	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	61	30	1,137
高校生	65	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	361	0	526
大学生	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
成人	69	180	665	0	0	30	0	0	40	0	0	0	0	0	0	75	160	1,219
合計	64,056	1,701	3,544	1,140	347	80	0	0	711	0	0	0	0	0	0	2,033	556	74,168

※不特定の人数(2,270人)を除く

「訪問活動」について、対象者別及び団体別に事業回数と参加人数を分析すると、回数及び人数ともにNPBが最も多く、事業の回数では全体の約77%、人数では全体の約86%を占めていた。また、その対象は、ほぼ幼児と小学生となっており、大学生に対する活動は行われなかった。独立リーグの事業でも幼児及び小学生に対する事業が中心となっているが、高校生に対する事業は行われなかった。参加人数をみると、2020年の調査結果では幼児の人数が減少し、小学生の人数が増加したことによってその差が広がっていたが、2022年調査でも同様の傾向にあり、低年齢層に対する訪問活動の割合が増加していた。

地域貢献活動 2022調査の結果

団体	回数
NPB	35
独立リーグ	86
OBクラブ	2
JABA	14
ボーイズ	41
大学連盟	1
高野連	7
全軟連	7
合計	193

都道府県	回数
北海道	2
青森県	2
宮城県	1
福島県	2
茨城県	10
栃木県	8
群馬県	1
埼玉県	1
千葉県	3
東京都	26
神奈川県	12
富山県	6
福井県	1

都道府県	回数
山梨県	1
長野県	14
岐阜県	1
静岡県	5
愛知県	3
三重県	1
滋賀県	1
京都府	1
大阪府	7
兵庫県	2
奈良県	1
和歌山県	6
岡山県	1

都道府県	回数
広島県	2
徳島県	8
香川県	4
愛媛県	5
高知県	19
福岡県	2
佐賀県	4
熊本県	19
大分県	1
宮崎県	1
鹿児島県	1
沖縄県	1
合計	186

季節		回数
春期	3月	4
	4月	4
	5月	6
	小計	14
夏期	6月	11
	7月	11
	8月	5
	小計	27
秋期	9月	5
	10月	35
	11月	29
	小計	69
冬期	12月	73
	1月	5
	2月	5
	小計	83
合計		193

※都道府県(活動なし):岩手県、秋田県、山形県、新潟県、石川県、鳥取県、島根県、山口県、長崎県 不明:7回

「地域貢献活動」について、団体別、都道府県別及び季節別の事業回数をみると、全体で193回の事業が行われ、団体別にみると、独立リーグが86回で最も多く、次いでボーイズ(41回)、NPB(35回)、JABA(14回)の順であった。都道府県別にみると、東京都が26回と最も多く、次いで高知県(19回)、熊本県(19回)、長野県(14回)、神奈川県(12回)、茨城県(10回)の順であった。一方で、地域貢献活動が行われていない都道府県が9県あった。季節別にみると、冬期(12-2月)の事業が最も多く、春期(3-5月)が最も少なかった。月別にみると、12月が最も多く73回で、次いで10月(35回)、11月(29回)であった。

障がい者及び高齢者のための事業 2022調査の結果

【障がい者】

活動数	8	人数	500
-----	---	----	-----

団体	NPB	名球会	JABA	高野連
	4	2	1	1

活動内容	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	大会開催
	2	1	1	1	3

都道府県	埼玉県	東京都	北海道	愛知県	愛媛県	香川県
	2	2	1	1	1	1

季節	春期				夏期			
	3月	4月	5月	小計	6月	7月	8月	小計
	0	0	0	0	1	0	1	2
	秋季				冬期			
	9月	10月	11月	小計	12月	1月	2月	小計
	0	0	3	3	2	0	1	3

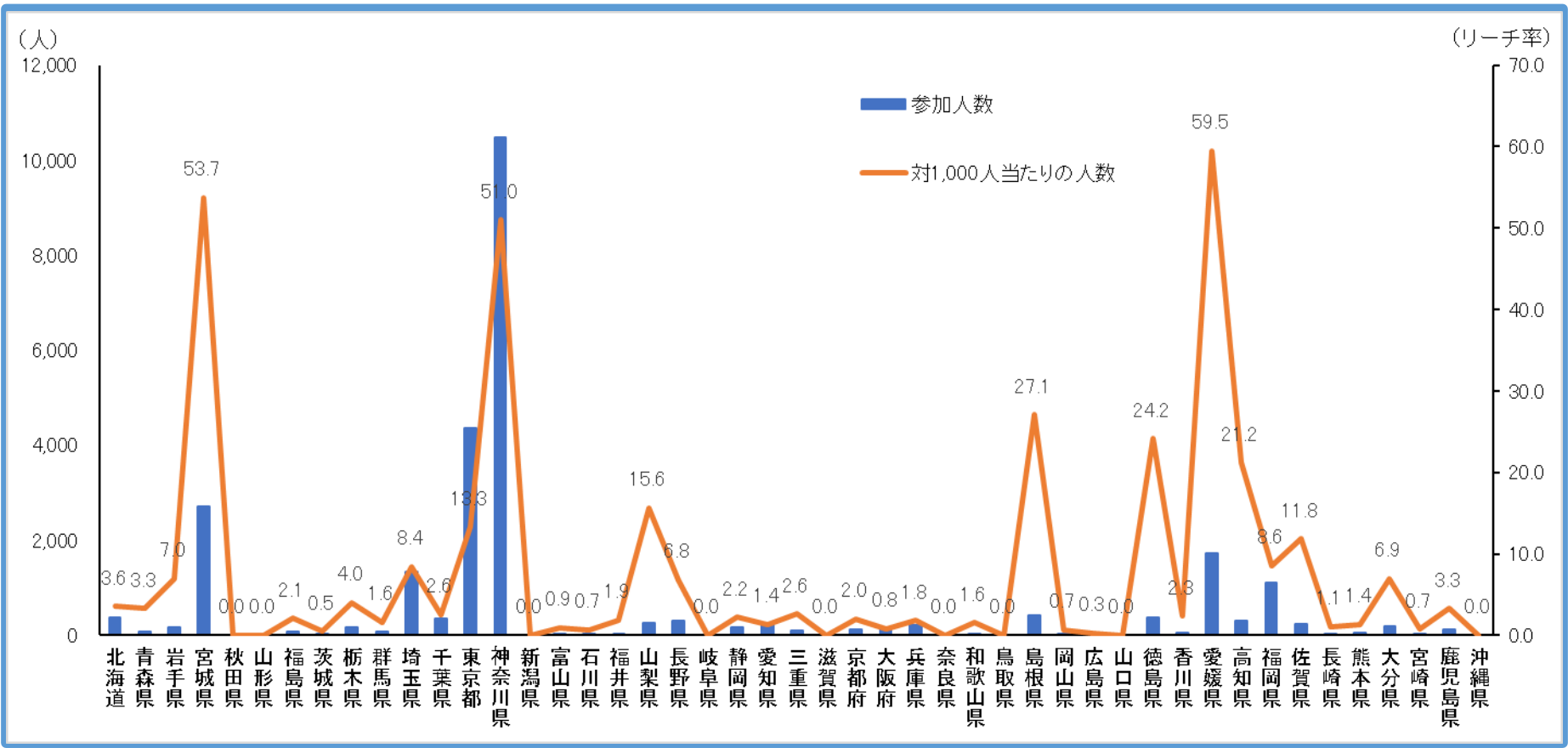
障がい者に対する事業は、8回行われており、参加人数は500人であった。事業を実施した競技団体としてはNPBが4回と最も多く、次いで名球会(2回)、JABA(1回)、高野連(1回)の順であった。事業内容は「大会開催」(3回)、「野球教室」(2回)、「体験活動」、「訪問活動(野球体験)」及び「訪問活動(その他交流活動)」が各1回であった。活動時期は、秋期及び冬期が最も多かった。一方で、春期には事業は行われなかった。月別にみると、11月が3回と最も多く、次いで12月(2回)、6月、8月及び2月(各1回)の順であった。一方で、3月、4月、5月、7月、9月、10月及び1月に事業は行われなかった。事業が実施された都道府県は、埼玉県、東京都、北海道、愛知県、愛媛県及び香川県の6都道府県で、2020年調査から7都道府県減少した。

他方で、高齢者を対象とする事業は、2022年調査時には行われなかった。

参考:都道府県×子どもへのリーチ率(3~5歳) 2022調査の結果

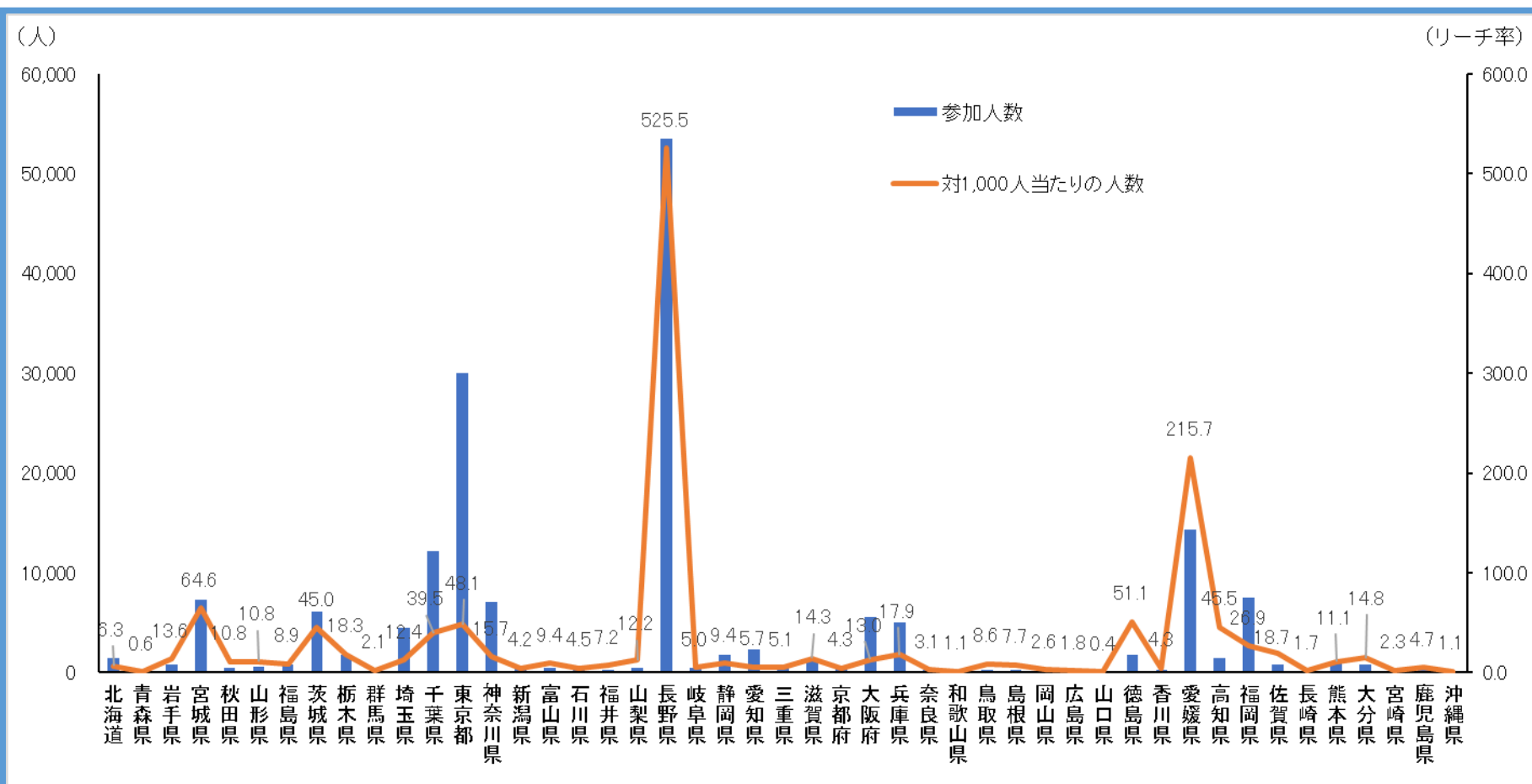
リーチ率

実際に行った野球普及振興活動が当該地域に在住する子どもに対してどの程度届いたかを測る指標。当該都道府県の3歳から5歳の子ども1,000人あたりに対する活動への参加人数を分析。



3~5歳の子どもに対するリーチ率を図るために、2016年から2018年に当該都道府県にて出生した子の数の合計(284万1,633人)を3~5歳の人口とみなして分析した¹⁾。3~5歳の子ども1,000人あたりに対する参加人数(リーチ率)をみると、愛媛県が59.5人と最も高く、次いで宮城県53.7人、神奈川県51.0人、島根県27.1人、徳島県24.2人とNPB球団や独立リーグのある都道府県が高い数値を示した。他方、リーチ率が0.0人の都道府県が9あり、リーチ率が1人以下の都道府県も多いことが指摘できる。

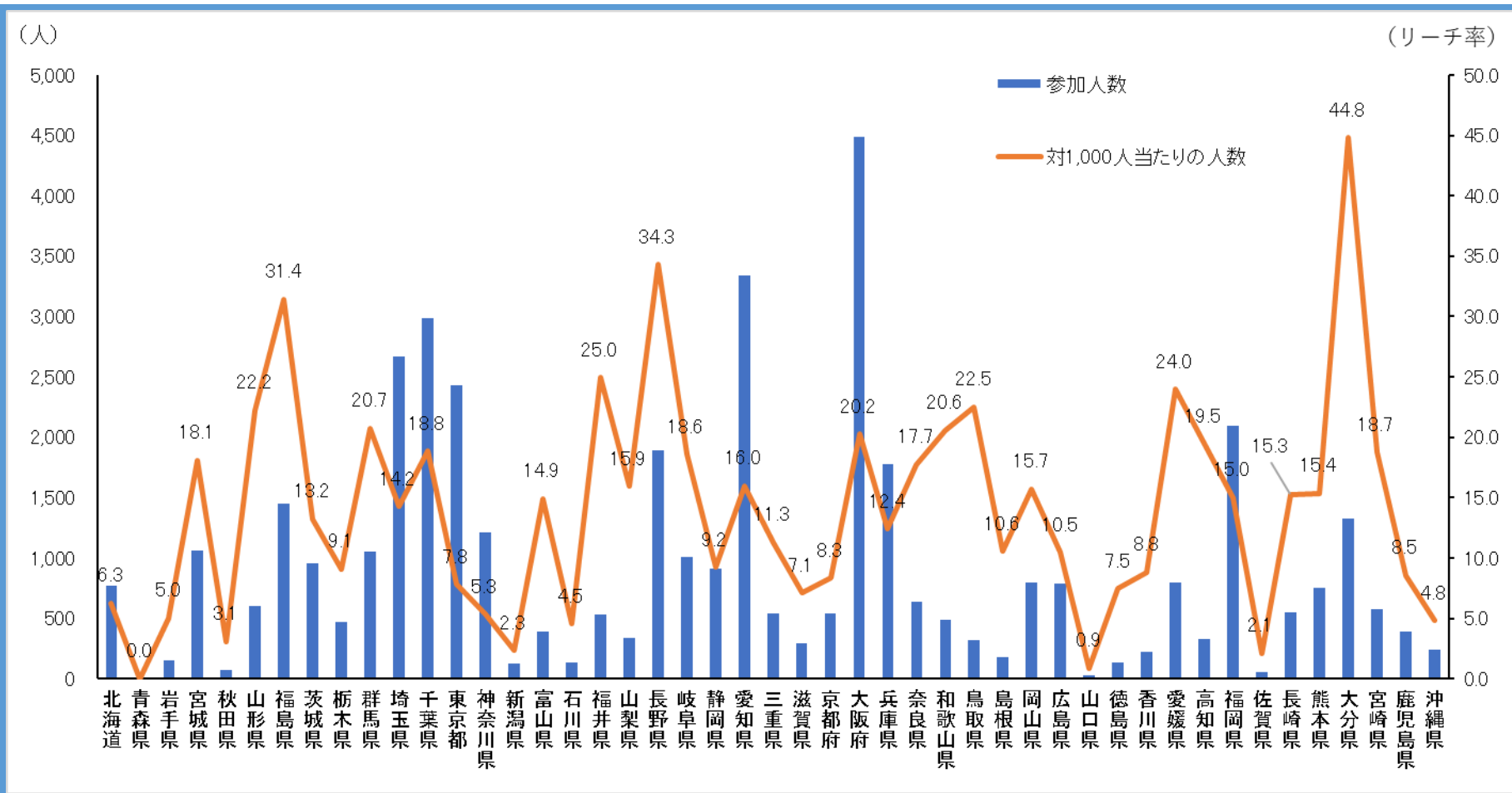
¹⁾本報告書では、当該年の出生数を3~5歳の人口としたため、転入出等の事象による増減があることに注意する必要がある。



小学生を対象とした事業をみると、参加人数では、長野県、東京都、愛媛県、千葉県、宮城県、神奈川県が多く、NPBや独立リーグの球団のある地域が上位となった。他方、小学生1,000人あたりに対する参加人数(リーチ率)をみると、長野県525.5人、愛媛県215.7人、宮城県64.6人、徳島県51.1人、東京都48.1人、高知県45.5人、茨城県45.0人の順に高い値となった。

また、小学生のリーチ率と3～5歳のリーチ率をみると、宮城県や愛媛県などのように、両方のリーチ率が高い都道府県もあれば、長野県や神奈川県などのように、どちらか一方のみが高い都道府県もあった。

注:長野県は、「観戦招待」事業(3回、計5万700人)がリーチ率の数値を引き上げている。



中学生を対象とした事業をみると、参加人数では、大阪府、愛知県、千葉県、埼玉県、東京都が多く参加しており、NPB球団が所在する都道府県が上位となった。他方、中学生1,000人あたりに対する参加人数(リーチ率)をみると、大分県44.8人、長野県34.3人、福島県31.4人、福井県25.0人、愛媛県24.0人の順となった。また、1,000人あたりのリーチ率は、2020年調査と同様に3~5歳の子ども及び小学生に比べて中学生は概ね低い傾向にあった。

調査票Ⅱ

＝特定人物に対して一定期間繰り返し行われる事業(参加者の継続性あり)＝

団体×活動(回数&人数) 2022調査の結果

【回数】

団体	スクール事業	その他(Ⅱ)	合計
NPB	159	1	160
JABA	10	8	18
リトル	0	1	1
大学連盟	4	2	6
高野連	5	4	9
全軟連	6	2	8
合計	184	18	202

【人数】

団体	スクール事業	その他(Ⅱ)	合計
NPB	13,047	56	13,103
JABA	292	1,409	1,701
リトル	0	320	320
大学連盟	77	212	289
高野連	397	268	665
全軟連	322	109	431
合計	14,135	2,374	16,509

調査年	スクール事業		その他(Ⅱ)	合計
	スクール事業	野球教室		
2022	184		18	202
2020	184		20	204
2018	175	15	18	208

調査年	スクール事業		その他(Ⅱ)	合計
	スクール事業	野球教室		
2022	14,135		2,374	16,509
2020	14,979		2,371	17,350
2018	11,972	827	562	13,361

特定の人口に対して継続的に行われた事業をみると、野球界全体で202の事業が行われ、1万6,509人が参加した。事業回数をみると、NPBが160回と最も多く、全体の約80%を占めた。NPBの活動は2020年調査時の事業回数よりも2022年調査時では19回増加していた。次いでJABAの18回となっているが、2020年の調査結果と比較すると12回減少していた。活動としては、NPBの「スクール事業」が159回と前回調査よりも13回増加していた。しかし、事業を実施した団体は、2020年調査と比較すると4団体減少していた。参加人数をみると、2020年調査の1万7,350人から2022年調査では1万6,509人に減少した。2020年調査と比べて2022年調査では、NPB、JABA、リトル、高野連及び大学連盟で参加人数が増加したが、全軟連の事業では参加人数が減少した。2018年と2020年の調査結果と2022年の調査結果とを比較すると、実施した事業回数は少しずつ減少している。また、「スクール事業」は、NPBが1万3,047人と最も多く、「その他(Ⅱ)」は、JABAが1,409人と最も多かった。「スクール事業」及び「その他(Ⅱ)」の参加者の継続性がある事業は、NPBとJABAが中心的な活動を行っているが、他の団体の事業も参加人数は2020年調査から増加傾向にある。「その他(Ⅱ)」の活動内容としては、大学が行う中学生の競技練習補助、大会等への審判の派遣、練習会等が挙げられる。他方で、事業への参加人数は、2018年の調査結果と2022年の調査結果を比較すると約3,200人増加していたが、2020年の調査結果と2022年の調査結果を比較すると約800人減少した。

都道府県×活動(回数)

団体	スクール事業	その他(Ⅱ)	合計
福岡県	40	0	40
神奈川県	34	1	35
東京都	24	0	24
愛知県	8	2	10
佐賀県	9	0	9
大分県	9	0	9
北海道	7	0	7
千葉県	5	2	7
宮崎県	7	0	7
埼玉県	6	0	6
大阪府	3	2	5
岐阜県	5	0	5
兵庫県	3	1	4
栃木県	3	0	3
静岡県	3	0	3
石川県	1	2	3
山口県	3	0	3
宮城県	3	0	3
熊本県	2	0	2
富山県	0	2	2
和歌山県	1	1	2
青森県	1	1	2
奈良県	1	1	2
茨城県	1	0	1
岩手県	1	0	1
広島県	1	0	1
鳥取県	0	1	1
京都府	1	0	1
滋賀県	1	0	1
海外	1	0	1
オンライン	0	2	2
合計	184	18	202

都道府県×活動(人数)

団体	スクール事業	その他(Ⅱ)	合計
東京都	2,056	0	2,056
神奈川県	1,662	200	1,862
大阪府	310	1,200	1,510
兵庫県	1,440	30	1,470
宮城県	1,277	0	1,277
北海道	1,112	0	1,112
千葉県	535	376	911
福岡県	847	0	847
埼玉県	684	0	684
愛知県	331	72	403
岐阜県	325	0	325
石川県	58	202	260
静岡県	231	0	231
佐賀県	164	0	164
大分県	154	0	154
広島県	150	0	150
奈良県	45	79	124
滋賀県	120	0	120
和歌山県	40	50	90
栃木県	88	0	88
山口県	62	0	62
富山県	0	60	60
宮崎県	59	0	59
鳥取県	0	56	56
京都府	40	0	40
岩手県	38	0	38
熊本県	37	0	37
青森県	20	15	35
茨城県	9	0	9
海外	2,241	0	2,241
オンライン	0	34	34
合計	14,135	2,374	16,509

※活動なし:高知県、長野県、福島県、秋田県、岡山県、三重県、群馬県、新潟県、山形県、福井県、山梨県、島根県、徳島県、香川県、長崎県、鹿児島県、沖縄県

都道府県別にみると、事業回数は、福岡県(40回)、神奈川県(35回)、東京都(24回)の順で多かった。参加人数は、「スクール事業」では海外(2,241人)、東京都(2,056人)、神奈川県(1,662人)、兵庫県(1,440人)、宮城県(1,277人)の順に多かった。海外のスクール事業は上海で行われた。その他(Ⅱ)では、大阪府が1,200人と著しく多く、次いで千葉県(376人)、石川県(202人)、神奈川県(200人)の順であった。また、17の都道府県で参加者の継続性があり一定期間繰り返し行われる事業は行われておらず、このような都道府県は、2020年調査と比較すると2022年調査では6県増加した。

団体×対象(回数&人数) (特定人物に対して一定期間繰り返し行われる活動について実施回数、参加人数の観点から分析)

【回数】

団体	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	成人	合計
NPB	91	146	41	5	1	6	290
JABA	0	3	12	1	3	2	21
リトル	0	1	0	0	0	1	2
大学連盟	2	3	2	0	1	1	9
高野連	2	3	4	3	0	3	15
全軟連	0	4	5	0	0	1	10
合計	95	160	64	9	5	14	347

※複数の対象で実施する活動があるため、延べ数となる。

【人数】

団体	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	成人	合計
NPB	1,291	9,856	876	98	339	643	13,103
JABA	0	47	285	10	1,299	60	1,701
リトル	0	90	0	0	0	230	320
大学連盟	13	40	32	0	200	4	289
高野連	75	120	197	141	0	132	665
全軟連	0	98	254	0	0	79	431
合計	1,379	10,251	1,644	249	1,838	1,148	16,509

各団体の事業を対象者別にみると、事業回数では、NPBが290回と最も多く、次いでJABA21回、高野連15回であった。2020年調査と比較すると、NPB及び全軟連の活動は横ばいであったが、JABAの活動は減少していた。プロ球団の対象はいずれも小学生が最も多く、JABAの対象は大学生が多かった。参加人数では、NPBが1万3,103人と最も多く、次いでJABA1,701人、高野連665人の順であった。NPBの対象は小学生が最も多く、JABAの対象は中学生と大学生が多く、全軟連の対象は中学生が多かった。全体では、小学生を対象とした事業回数及び参加人数の合計が最も多かった。

その他(特記事項)

◆ 団体別傾向・特記事項

統括団体	調査票	傾向・特記事項
NPB	I	最も多くの普及振興活動を行っており、幼児や小学生を対象に「訪問活動(野球体験)」や「体験活動」といった野球未経験者を含む対象集団に対する事業の割合が増加している。
独立リーグ	I	「野球教室」の実施回数が増加した。2020年調査と比較すると実施回数は減少したが、「地域貢献活動」の活動比重が大きく、地域に根ざした活動形態である。
選手会	I	「訪問活動」を定期的に行っている。
OBクラブ	I	オンラインでの事業を多く行っている。
WCBF	I	10月から12月にかけて「野球教室」と「訪問活動(野球体験)」を多く行っている。
名球会	I	オンラインでの「野球教室」の活動が中心である。
JABA	I	幼児から中学生の各年代に満遍なく「野球教室」を行っている。
小・中硬式野球	I	2020年調査と同様に、子どもの将来を見据えたけが防止事業や講習会の実施が特徴的であった。
大学連盟	I	大学が主体となって「野球教室」を多く行っている。

◆ 特徴的な事業

統括団体	調査票	傾向・特記事項
NPB	I	「NPBガールズトーナメント2021」や「女性限定グラウンド解放」など女性を対象とした事業が行われている。
NPB	II	「スクール事業」 NPBが行うスクール事業には、野球だけでなく、ダンスやチアダンス、ランナーのスクールも含まれている。
独立リーグ	I	「観戦招待」を継続的に行っている。
殿堂博物館	I	「その他(I)」 オンラインを活用した野球の情報発信を行っている。
JABA	I	「訪問活動(野球体験)」 簡易型ベースボール競技(ティーボール)の普及活動を行っている。
ボーイズ	I	「地域貢献活動」 全国一斉ボランティア事業を行っている。
全軟連	I	「体験活動」 簡易型ベースボール競技(Baseball5及びティーボール)の普及活動を行っている。

まとめ

- 【A】 野球の普及振興活動は、全体としては、2016年、2018年及び2020年の調査結果と比較して2022年の調査結果の方が参加人数及び事業回数が大幅に減少していた。その原因は、新型コロナウイルス感染症の影響であると考えられる。
- 【B】 特に2020年の調査結果と2022年の調査結果を比較すると、2022年の調査結果では、「野球教室」、「訪問活動(野球体験)」、「体験活動」の事業回数が減少していた。
- 【C】 野球の普及振興活動は、参加者の継続性がない事業(調査票Ⅰの事業)が減少したが、それに比べると参加者の継続性がある事業(調査票Ⅱの事業)については横ばいであった。
- 【D】 「講習会」「その他(Ⅰ)」の事業をオンラインで行うケースが生じている。
- 【E】 各都道府県の幼児、小学生及び中学生のリーチ率をみると、都道府県で野球の普及振興活動に差がある。特に、独立リーグがある都道府県などで地方においても子どもへのリーチ率が高い都道府県がある。
- 【F】 競技統括団体の選手登録者数は軟式野球で著しく減少している。



今後の野球普及振興活動のための方策

- 子どもや未経験者が野球を継続的に行うことを促進する普及振興活動の促進
- 野球関係団体へ登録して野球を行なう者の増加の促進
- 地域の野球チームやその指導者に対する普及振興活動の促進及び調査